令和２年度補正予算（３号）文化芸術振興費補助金

大規模かつ質の高い文化芸術活動を核としたアートキャラバン事業

巡演ネットワーク普及拡大推進プロジェクト

ー演劇を迎える喜びに支えられてー

実施報告書

2022 年 1 月

公益社団法人日本劇団協議会

目次

①はじめに
本事業の企画意図、及び目的について　福島明夫　…… 1

②―Ⅰ 事業概要　…… 3
Ⅱ 各種データ　公演地域・上演作品・公演ステージ数　等

③公演記録
01 北海道、青森県、秋田県、岩手県　…… 5
02 山形県、宮城県、福島県、群馬県　…… 8
03 埼玉県、千葉県、東京都練馬区　…… 11
04 東京都（板橋区、北区、立川市、町田市）、神奈川県　…… 14
05 静岡県　…… 17
06 愛知県　…… 20
07 長野県、岐阜県、三重県　…… 23
08 富山県、石川県、福井県　…… 26
09 大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県　…… 29
10 岡山県　…… 32
11 広島県、島根県、鳥取県　…… 35
12 山口県（周南市、柳井市）、徳島県、香川県、愛媛県、高知県　…… 38
13 山口県下関市、福岡県北九州市、大分県　…… 41
14 福岡県（福岡市、飯塚市、直方市、田川市）、佐賀県　…… 44
15 長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県　…… 47

④参加劇団、出演者からの報告
演劇鑑賞会のツアー公演を経て感じたこと　西尾友樹　…… 50
アートキャラバンに参加して思うこと　佐々木 愛
東京だけに観客がいると思ったら大間違いだ　樫山文枝　…… 51
最終公演地 佐賀市より　旺なつき
近畿地方『左の腕』上演を終えて　山本弘人　…… 52
ロマンに満ちた英断が、勇気と希望を生み出した　横川 功　…… 53

⑤演劇鑑賞団体からの報告
アートキャラバン事業の最終報告書　大井則生　…… 54
アートキャラバンを通して感じたこと　鎌田秀勝　…… 55
アートキャラバンから受け取ったもの　黒川 栄　…… 56
地方都市で観続けていくこと　渋谷亜紀　…… 57
創造と鑑賞の連帯、演劇の灯をともし続けるために　大谷紫乃　…… 58
それでも劇団は芝居を創り、旅を続けた　民谷陽子　…… 59

⑥アンケートから読み取れるもの
Ⅰ アンケート総数　…… 60
Ⅱ アンケート概要　男女比、年齢層、職業別、鑑賞回数、資料　…… 61
Ⅲ まとめ　（データ作成・編集部　文責・福島明夫）　…… 65

⑦今回の成果と今後の課題　福島明夫　…… 67

①はじめに

本事業の企画意図、及び目的について

一昨年来のコロナ禍で繰り返される感染の波に対しての緊急事態宣言等の感染拡大防止のために、私たち演劇人、劇団は数多くの公演の中止、延期を余儀なくされてきました。それは私たちにとっては表現機会、観客との出会いの喪失でしたが、国民にとっては鑑賞機会の喪失となり、さらに鑑賞機会を作ってきた市民団体や劇場、興行団体の事業継続の危機ともなったのです。特に 2020 年の三月期から六月期に公演はほぼ全て中止に追い込まれたことで、運営経費の捻出すら困難になり、またそれ以降も 50%制限によるステージ増のための経費増に対して、密を避ける流れによる退会者の続出による収入減という事態を前に、経済的に成立しなくなっての解散の流れも生まれてきました。

演劇の鑑賞機会をどう作っていくのかという課題は私たちだけのものではないと考えています。人々が演劇に親しむ、本格的な演劇を鑑賞する機会をどう確保するのかという課題は、社会の問題です。人間にとって共感を生む対話が必須のものであることが科学的にも明らかにされてきていますが、その共感を作る場としての劇場、演劇鑑賞機会が無くなることは社会をどう形作るかという問題だからです。

このたび文化庁が「アートキャラバン事業」を「新型コロナウイルスの感染拡大による委縮効果を乗り越え、文化芸術に対する需要喚起や業界全体の活性化を図ること」を目的として、「我が国における文化芸術水準を向上させるような公演等を支援し、文化芸術の質の向上と、文化芸術の重要性や魅力を発信する」事業を行うことを発表した時に、当法人として、この機会を生かして全国の演劇鑑賞機会の継続に向き合う事業を行うべきと判断しました。特に我が国の演劇公演活動において、市民が会費を持ち寄って自らの手で演劇公演を行っている演劇鑑賞会を継続させることは社会的使命ですらあると考えたからです。というのも、全国各地に広がったこの演劇鑑賞運動の存在は、鑑賞機会の創出に止まらず、演劇に対する社会的理解を広げ、また演劇人、文化関係者を育てる幅広い裾野を形成しているからです。

全国での演劇鑑賞機会は、公立文化施設の自主事業、民間企業主催、学校主催等によって担われていますが、現状では、子ども劇場、演劇鑑賞会、音楽鑑賞団体等の市民団体によって担われている比率が高く、また今後を展望した時にもこれらの市民団体が支えることが期待されるのではないかと考えます。問題はこういった志をもった市民の自立した運動が継続できる環境をどう確保できるかにあります。

私たちは本事業の実施によって…

第一に、コロナ禍によって受けた打撃を乗り越え、演劇鑑賞組織、それぞれの地域で支えてくださっている個人、団体の演劇鑑賞機会を継続する意欲を激励すること。

第二に、公演を実施することで、現在の演劇鑑賞機会を創出する上での可能性とともに困難、課題を明らかにして、今後の活動指針をより豊かなものとすること。

第三に、併せて行う大規模なアンケートによって、観客の実状、要望、要求を把握するこ

とで、今後の各劇団、及び当法人の活動に生かしていくことを目的としました。

幸いにも、当法人の事業実施にあたって、全国各地の演劇鑑賞会、及び個人、団体から趣旨への賛同と、事業協力の表明をいただき、事業実施にあたった会員、及び会員外の劇団にも多大なご協力をいただくことができました。またさらに上演作品で参加できなかった会員劇団には、広報、アンケート集計等々にご協力いただきました。特に事業実施前の八月期がコロナ感染の第五波が襲ったこともあり、その中での公演の実施にあたっては、一方ならぬご苦労をおかけすることになりました。そのことに対して深く感謝申し上げます。

これらのおかげをもちまして予定した公演全 19 作品、324 ステージのすべてを行うことができました。以下、事業実施概要、参加劇団、協力していただいた演劇鑑賞団体の方々からの感想、ご意見、そしてアンケート概要等についてご報告申し上げることで、本事業の目的に寄与できればと念じています。

福島明夫

②―Ⅰ　事業概要

文化庁「大規模かつ質の高い文化芸術活動を核としたアートキャラバン事業」は、我が国の文化芸術水準を向上させるような公演等を支援し、文化芸術の質の向上と、文化芸術の重要性や魅力を発信することにより、新型コロナウイルスの感染拡大による萎縮効果を乗り越え、文化芸術に対する需要喚起や業界全体の活性化を図ることを目的としています。

公益社団法人日本劇団協議会では、創造と鑑賞の力強い関係を取り戻すために、全国 15 地域 118 箇所に 19 作品 324 ステージを届ける演劇アートキャラバン事業「巡演ネットワーク普及拡大推進プロジェクト－演劇を迎える喜びに支えられて－」に取り組むことになりました。

②―Ⅱ　各種データ

公演地域

全国 15 地域 118 箇所（※15 地域別の各公演データは後述）

上演作品

全 19 作品

劇団チョコレートケーキ	「一九一一年」
こまつ座	「化粧二題」
劇団銅鑼	「花火鳴らそか ひらひら振ろか」
文学座	「怪談 牡丹燈籠」
人形劇団プーク	「オッペルと象」
劇団民藝	「篠田三郎・樫山文枝 文学の夕べ」
劇団民藝	「泰山木の木の下で」
NLT プロデュース	「グッドピープル」
劇団民藝	「野の花ものがたり」
劇団東演	「マクベス」
オペラシアターこんにゃく座	「オペラ イヌの仇討あるいは吉良の決断」
プレオム劇	「脚光を浴びない女」
劇団文化座	「命どぅ宝」
トム・プロジェクト	「萩咲く頃に」
劇団 NLT	「O.G.」
俳優座劇場	「音楽劇 母さん」
エイコーン	「松井須磨子」
無名塾	「左の腕」
劇団 1980	「こい／榎物語」

公演ステージ数
324 ステージ

チケット販売枚数
157,487 枚

本事業による演劇鑑賞団体の新たな観劇者数
4,891 名

感染拡大防止のためにとった手立て
全国の演劇鑑賞団体が独自に策定した『**例会を実施する際の新型コロナウイルス感染防止対策**』、日本劇団協議会『**主催事業のための劇場ガイドライン**』、緊急事態舞台芸術ネットワーク『**舞台芸術公演における新型コロナウイルス感染予防対策**』、公益社団法人全国公立文化施設協会『**劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン**』などに基づき来場者、劇団、創造団体の継続的な消毒と検温を徹底し、自治体により発出される緊急事態措置やまん延防止等重点措置の情報共有、行動自粛に取り組んだ。さらに、劇団・創造団体は、定期的な PCR 検査を実施した。

③公演記録

01 北海道、青森県、秋田県、岩手県

劇団チョコレートケーキ「一九一一年」

団体名	会場名	入場者数
旭川市民劇場	旭川市公会堂	487
NPO 法人 演劇鑑賞会北座	北海道立道民活動センター[かでる２・７]かでるホール	659
函館演劇鑑賞会	函館市芸術ホール(ハーモニー五稜郭)	332
くしろ演劇みたい会	釧路市生涯学習センターまなぼっと幣舞	244

NLT プロデュース「グッドピープル」

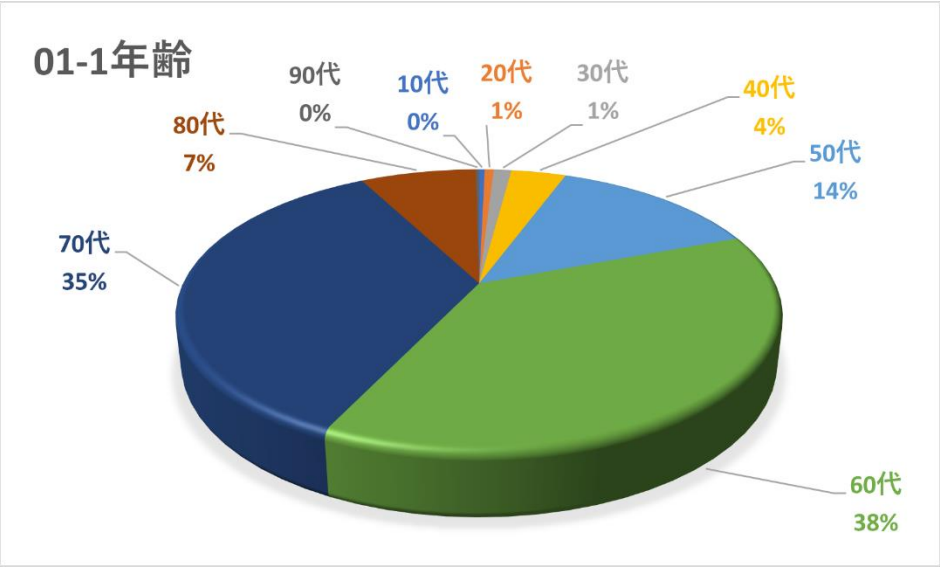
団体名	会場名	入場者数
青森演劇鑑賞協会	リンクモア平安閣市民ホール（青森市民ホール）	396
八戸市民劇場	八戸市公会堂	643
秋田演劇鑑賞会	秋田市文化会館	327

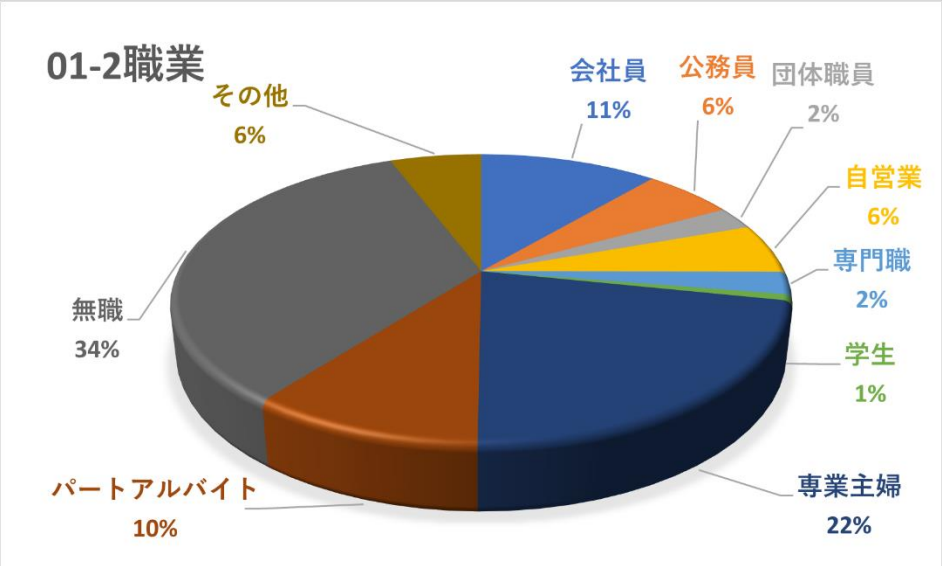
プレオム劇「脚光を浴びない女」

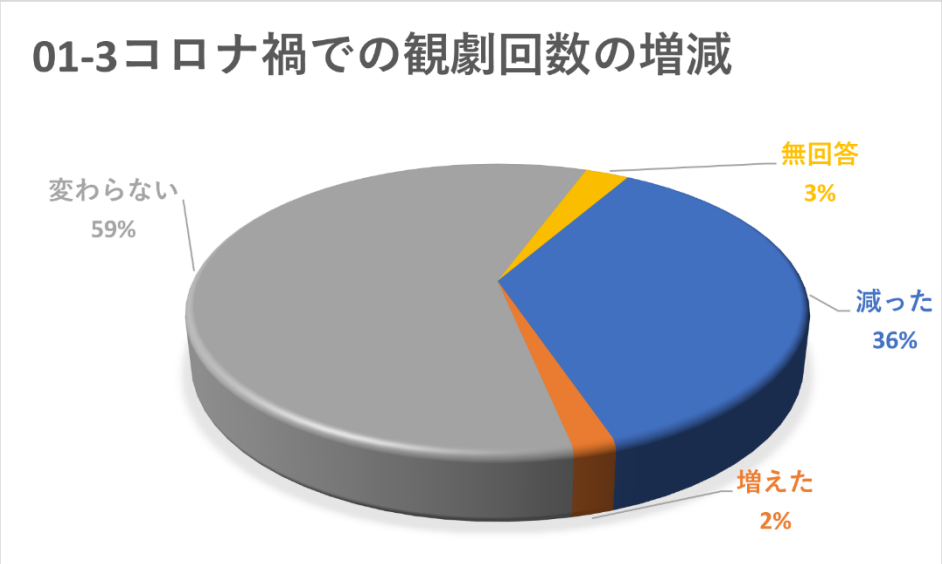
団体名	会場名	入場者数
旭川市民劇場	旭川市公会堂	700
NPO 法人 演劇鑑賞会北座	北海道立道民活動センター[かでる２・７]かでるホール	745
函館演劇鑑賞会	函館市芸術ホール(ハーモニー五稜郭)	367

俳優座劇場「音楽劇 母さん」

団体名	会場名	入場者数
旭川市民劇場	旭川市公会堂	745
函館演劇鑑賞会	函館市芸術ホール(ハーモニー五稜郭)	362
くしろ演劇みたい会	釧路市生涯学習センターまなぼっと幣舞	292
青森演劇鑑賞協会	リンクモア平安閣市民ホール（青森市民ホール）	408
盛岡演劇鑑賞会	盛岡市民文化ホール	247


01-1年齢
90代
0%
10代
0%
20代
1%
30代
1%
40代
4%
50代
14%
60代
38%
70代
35%
80代
7%


01-2職業
会社員
11%
公務員
6%
団体職員
2%
自営業
6%
専門職
2%
学生
1%
専業主婦
22%
パートアルバイト
10%
無職
34%
その他
6%


01-3コロナ禍での観劇回数の増減
無回答
3%
減った
36%
増えた
2%
変わらない
59%

アートキャラバン事業についての意見と感想

旭川

●人との関わりが制限される不自由な日常を余儀なくされているコロナ禍。会話だけでなく楽しみが極端に減り、心身の健康維持に工夫・努力が必要です。しかし個人の力だけでは限界があります。会場に足を運び友と共に鑑賞する舞台芸術は私にとって生きるエネルギーが得られるなによりの宝です。いくつになっても生きる活力となるものを求め続けていたいです。文化庁の支援を強く望みます。

●世の中から演劇・音楽、鑑賞機会が無くなったら希望も光もありません。そんな世の中にならないようにぜひぜひ継続を。ここ２年ばかり、もちろん札幌に行けなく、唯一市民劇場のみが頼みの綱です。

札幌

●コロナ状況下でも演劇をみるのはとても幸せなことです。負けずに公演して下さい。私たちも負けずに観劇します!!昨年 8 月休止後、しばらくぶりで見られた時はとても感動しました。生きている実感がありました。

函館

●コロナ禍がいつまで続くのか、光が全く見えない状態では、国の支援を受けるのは、悪い事ではない。日本は芸術に対する国の考えが低すぎると、いつも感じています。演劇・音楽全般（クラシックや芸能他）、美術などにもっと力を入れる事、ヨーロッパ並みにとは思わないが、質の高い芸術は大切な宝になると思っています。

釧路

●地方都市は人口減で産業も文化も衰退の一途をたどっています。住民の意識を高め、文化活動の灯を守り続けることが、その土地に生きる人々の英気を養い、なんとか繋ぎとめる手立ての一つであると思います。政治家さん、行政さんにも尽力をいただきこの活動が続いていくことを願います。

青森

●多様な文化環境が在って、その時々の自分の有り様で選択できる、楽しめる、人生を豊かにできる、なんて素敵なことだろう。しかも消費税もかからず施設利用も特別価格で保証されたらとも考える。このような施策は通常時であっても欲しい！！

秋田

●県をまたいでの遠出は感染がおちついても困難（医療機関で働いてるため）近くで生の演劇に触れたい。生活の質を豊かにするうえで文化は大切です。劇団の方々が安心して演じられる様に、国の支援をお願いします。

02 山形県、宮城県、福島県、群馬県

NLT プロデュース「グッドピープル」

団体名	会場名	入場者数
仙台演劇鑑賞会	仙台銀行ホール イズミティ 21	1226
福島演劇鑑賞会	キョウワグループ・テルサホール（福島テルサ）	1222
いわき演劇鑑賞会	いわき芸術文化交流館 いわきアリオス	722
会津演劇鑑賞会	會津風雅堂	338
郡山演劇鑑賞会	須賀川市文化センター	226

劇団民藝「野の花ものがたり」

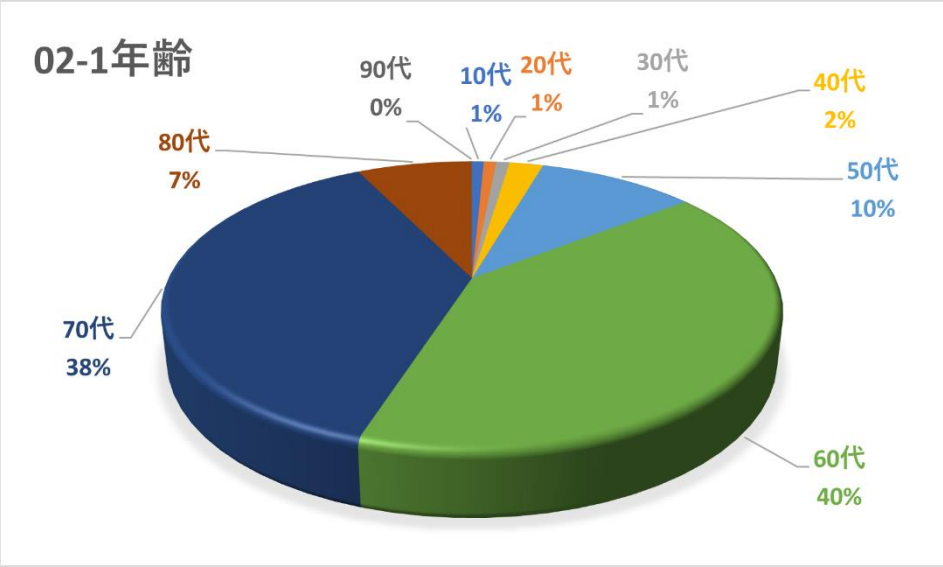
団体名	会場名	入場者数
高崎演劇鑑賞会	高崎市文化会館	140
いせさき演劇鑑賞会	伊勢崎市文化会館	242

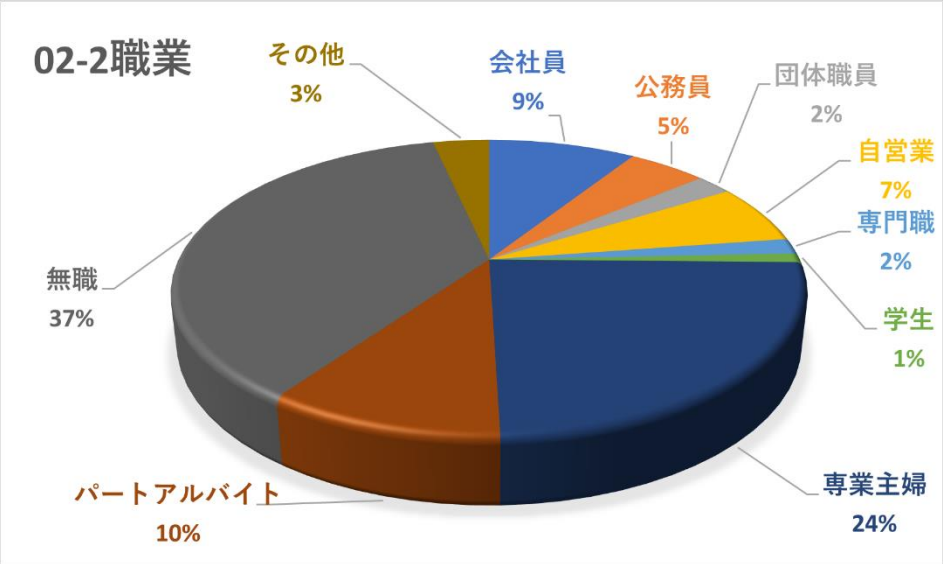
俳優座劇場「音楽劇 母さん」

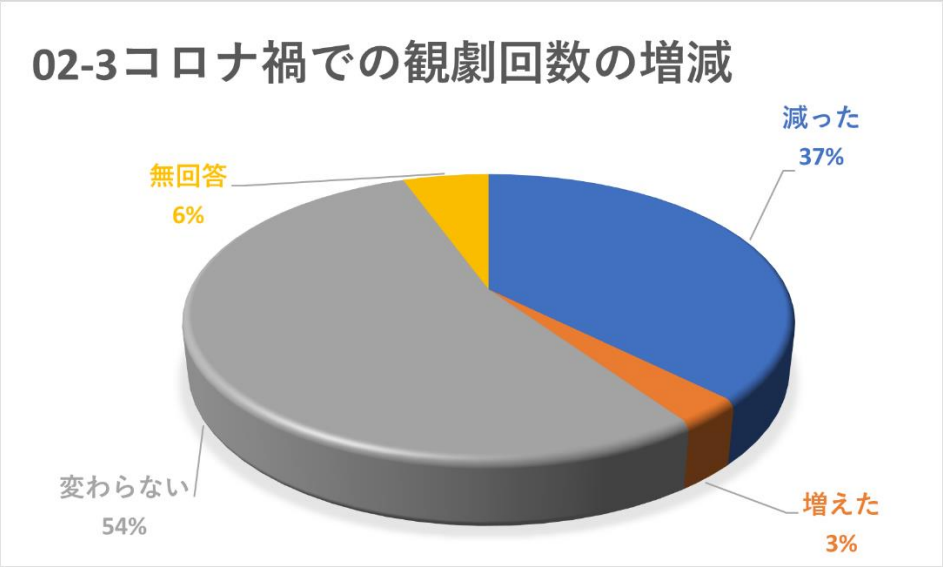
団体名	会場名	入場者数
仙台演劇鑑賞会	トークネットホール仙台（仙台市民会館）	1232
鶴岡市民劇場	鶴岡市中央公民館	281
福島演劇鑑賞会	とうほう・みんなの文化センター(福島県文化センター)	1130
いわき演劇鑑賞会	いわき芸術文化交流館 いわきアリオス	713
会津演劇鑑賞会	會津風雅堂	330

劇団 1980「こい／榎物語」

団体名	会場名	入場者数
いせさき演劇鑑賞会	伊勢崎市文化会館	250


02-1年齢
90代
0%
10代
1%
20代
1%
30代
1%
40代
2%
50代
10%
60代
40%
70代
38%
80代
7%


02-2職業
その他
3%
会社員
9%
公務員
5%
団体職員
2%
自営業
7%
専門職
2%
学生
1%
専業主婦
24%
パートアルバイト
10%
無職
37%


02-3コロナ禍での観劇回数の増減
減った
37%
無回答
6%
変わらない
54%
増えた
3%

アートキャラバン事業についての意見と感想

仙台

●2020 年に鑑賞会以外で観劇した 2 回は 1～2 月なのでコロナ禍の前になります。コロナ以降は観劇する予定だった舞台が中止や延期となり、上演されたものも県外への移動を避けるために断念したので、鑑賞会以外で観劇できたのは０回です。なので、地元まで来ていただけるのは本当にありがたいことだと思っております。

福島

●劇団等は都市部に多く、通常では観劇の機会に恵まれる一方、コロナ流行期には中止や客数制限をせざるを得ないし、地方からは都市部への移動を制限されがちになる。本事業はこうした不均衡の緩和の一助になる取り組みとして有用と思われる。

いわき

●3.11 震災～コロナ禍を経て、当たり前の日常が決して当たり前でないことが現実になったとき、地元にいながら素晴らしい演劇を鑑賞できることがどれだけ喜びであり、慰めであったことでしょう。事業の具体的なことはわかりませんが、演劇が継続的に鑑賞できますよう是非今後もこの取り組みを大きく広げていってほしいと思います。

会津

●文化的なものが不要となっているコロナ禍の中、とても必要な取り組みだと思います。このような状況が長く続けば、人の心がどんどん悪い方向へ変化していくと思います。特に若い人たちが夢を持って幸せに生きることがとても大切なことと考えます。

郡山

●公的支援は絶対に必要です。コロナ禍だからというのではなく、平時から日本は文化芸術にもっと公的なお金を使い、劇団、文化人、スタッフ、アーティストを守り、どんな地域でも良質な文化芸術に触れることのできる機会の創出に心を砕くべきです。ましてやこのコロナ禍です。今回に限らず、ぜひ継続的な支援をお願いいたします。

高崎

●コロナ禍のきびしい状況下で劇団の方達、そして鑑賞団体への支援が、文化庁、国からの支援で、開催出来たことは大変喜ばしい限りです。舞台芸術の素晴らしさが全国市民に向けてより深く理解され、劇団の活動と鑑賞団体をささえ、係っている方達の力となり、未来に向けて会員拡大の第一歩になればと思います。ありがとうございます。

伊勢崎

●私は今高校生なので、あまり自由に活動ができないのですが、近場で演劇を気軽に見られるのはとても良いと思いました。

03 埼玉県、千葉県、東京都練馬区

劇団銅鑼「花火鳴らそか ひらひら振ろか」

団体名	会場名	入場者数
埼玉市民劇場	彩の国さいたま芸術劇場	665
NPO 法人 ふなばし演劇鑑賞会	船橋市民文化ホール	1375
ねりま演劇を観る会	練馬文化センター つつじホール	606

劇団民藝「野の花ものがたり」

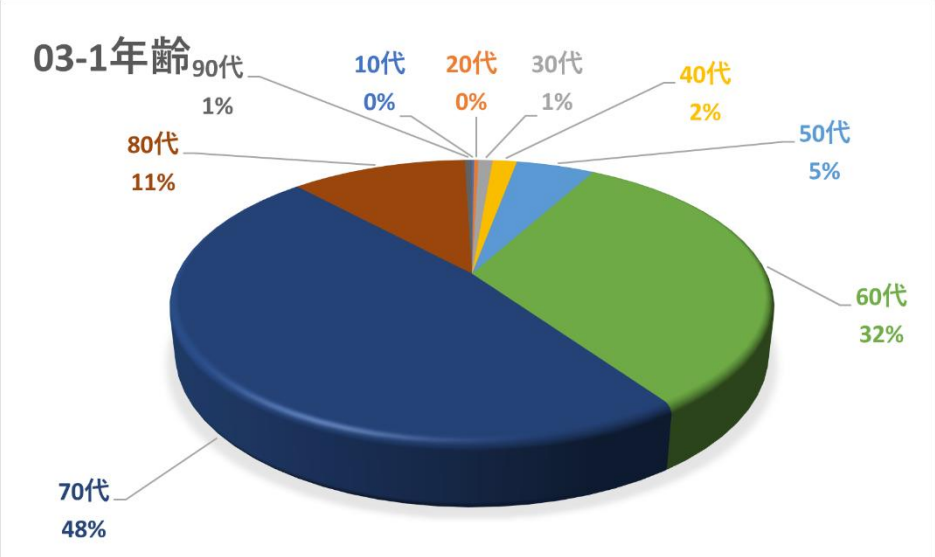
団体名	会場名	入場者数
深谷虹の演劇鑑賞会	深谷市民文化会館	283
本庄虹の演劇鑑賞会	本庄市民文化会館	343

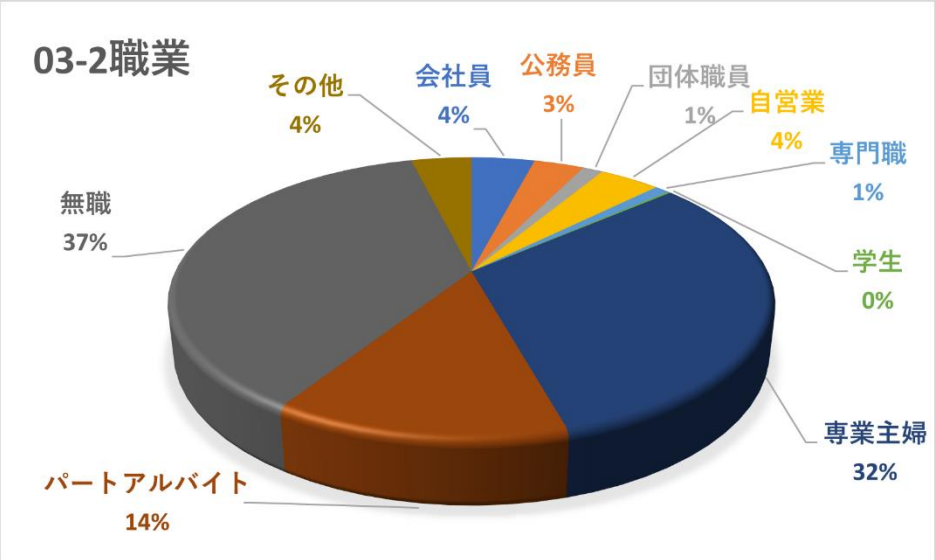
劇団東演「マクベス」

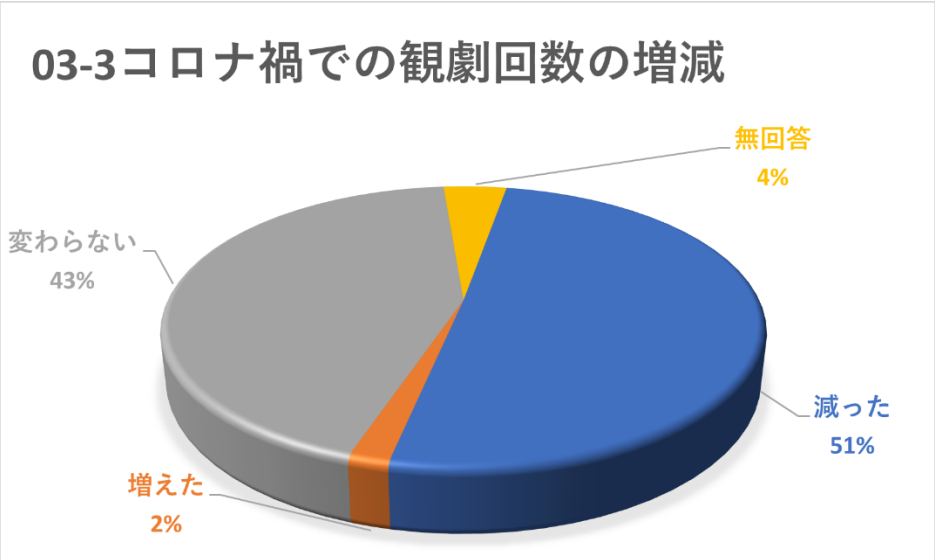
団体名	会場名	入場者数
埼玉市民劇場	埼玉会館	747
NPO 法人 ふなばし演劇鑑賞会	船橋市民文化ホール	1514
松戸演劇鑑賞会	森のホール 21（松戸市文化会館）	425
NPO 法人 ちば演劇を見る会	千葉市民会館	1641
	四街道市文化センター	

劇団 1980「こい／榎物語」

団体名	会場名	入場者数
深谷虹の演劇鑑賞会	深谷市民文化会館	291
本庄虹の演劇鑑賞会	本庄市民文化会館	322


03-1年齢
90代
1%
10代
0%
20代
0%
30代
1%
40代
2%
50代
5%
60代
32%
70代
48%
80代
11%


03-2職業
その他
4%
会社員
4%
公務員
3%
団体職員
1%
自営業
4%
専門職
1%
学生
0%
専業主婦
32%
パートアルバイト
14%
無職
37%


03-3コロナ禍での観劇回数の増減
無回答
4%
変わらない
43%
減った
51%
増えた
2%

アートキャラバン事業についての意見と感想

埼玉

●文化は国策として保護されるべきものと思う。文化を軽視する社会は殺伐として思いやりのない社会のように思う。多様なものの考え方を分かち合える社会を目指すなら演劇は十分にその役割を果たすと思う。

本庄

●地元近くで鑑賞の機会が得られることが最大の利点。演劇を初め文化芸術活動の領域は人間の心の教育になくてはならないもの。例え住む地域が違おうと格差が生じない取り組みが大切。環境あるいは機会を支えてやることが大切。こういう機会を得られた者の何人かは自分に取り込みその人の血や肉となって人生を決定づけていくことであろうと考える。

●「アートキャラバン事業」はすばらしい、文化庁の最大のヒット事業ではないかと思います。毎年継続してほしい。マスコミを通じて広く宣伝して欲しいものです。演劇では全国 118 か所 324 公演をまとめてながめると壮観です。写真入りの上演作品一覧も参考になります。今後もこのような事業が継続されることを望みます。

深谷

●演劇に係わる方々の大変なご苦労に本当に頭が下がります。本当にお疲れ様です。ネット社会になり、アナログ世代の私には追い付けない感が多い日々ですが、演劇も音楽もホールでの空気を震わせて伝わってくる、その時だけの波を、感動を、アナログの原点を、いつまでも大切にしたいです。鑑賞機会がすぐに元に戻ることは難しいとは思いますが皆さんのご協力は必ずや報われることを切に願っております。Never Give Up! Go for it!　ですね。

船橋

●コロナの為にこの様に演劇鑑賞が出来なくなる事態は、初め想像しませんでした。徐々に広がる感染で、劇団関係者が制約を受けることに心痛めました。芸術鑑賞は貴重で、なくてはならないものです。アートキャラバン事業は本当に嬉しい意義のあるものと感じました。大好きな演劇鑑賞会をなくしたくありません。

練馬

●コロナ禍で大変ですが、舞台芸術が続くよう支援を続けてほしいと切に思います。アートキャラバン事業はぜひ必要と思います。

04 東京都（板橋区、北区、立川市、町田市）、神奈川県

劇団銅鑼「花火鳴らそか ひらひら振ろか」

団体名	会場名	入場者数
板橋演劇鑑賞会	板橋区立文化会館	396
城北演劇を観る会	北とぴあ さくらホール	383
三多摩演劇をみる会	KOTORI ホール（昭島市民会館）	402
NPO 法人 町田演劇鑑賞会	町田市民ホール	490

劇団民藝「野の花ものがたり」

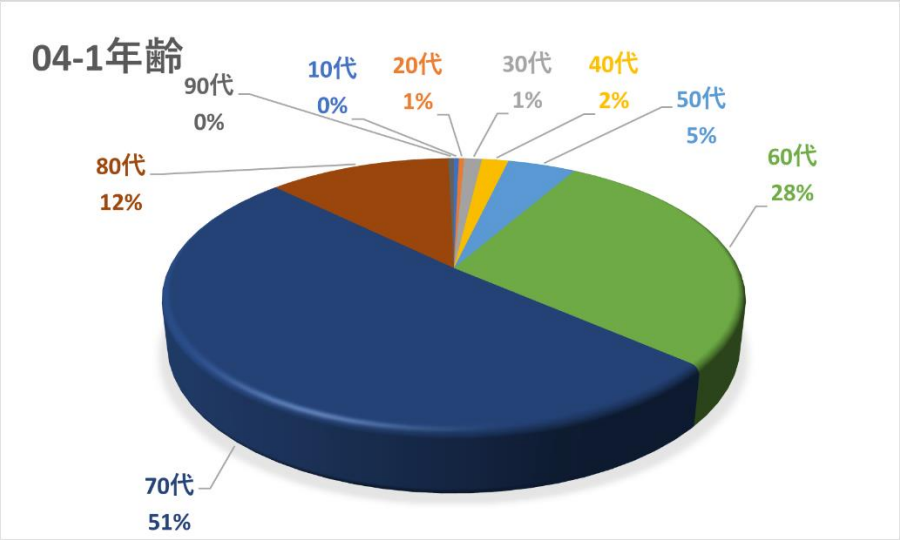
団体名	会場名	入場者数
川崎市民劇場なかはら	川崎市総合福祉センター エポックなかはら	626
川崎さいわい市民劇場	川崎市立労働会館サンピアンかわさき	306
たま・あさお市民劇場	川崎市多摩市民館	183
NPO 法人 鎌倉演劇鑑賞会	鎌倉芸術館	528
NPO 法人 茅ヶ崎演劇鑑賞会	藤沢市湘南台文化センター　市民センター	434
NPO 法人 藤沢演劇鑑賞会		472

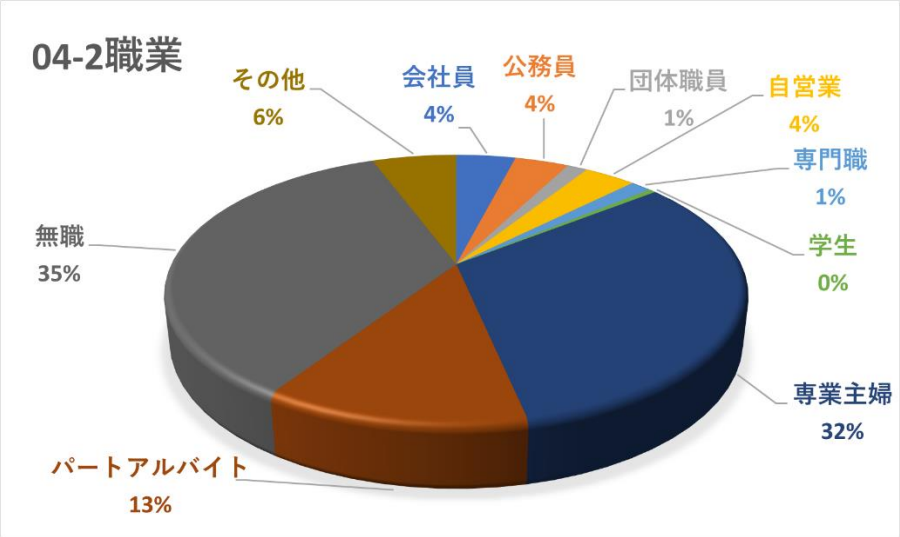
劇団東演「マクベス」

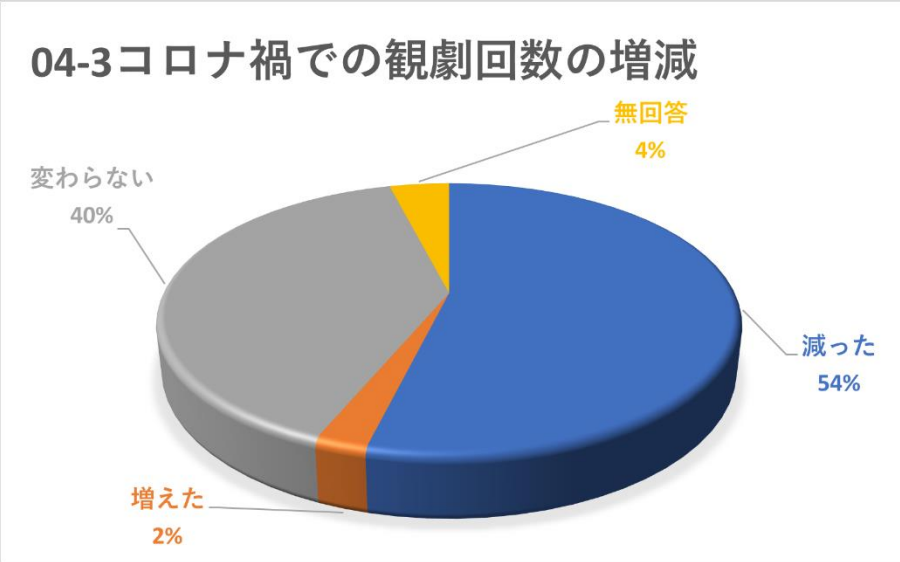
団体名	会場名	入場者数
板橋演劇鑑賞会	板橋区立文化会館	418
城北演劇を観る会	北とぴあ さくらホール	447
三多摩演劇をみる会	福生市民会館	437
NPO 法人 町田演劇鑑賞会	川崎市多摩市民館	525

エイコーン「松井須磨子」

団体名	会場名	入場者数
川崎市民劇場なかはら	川崎市総合福祉センター エポックなかはら	667
川崎さいわい市民劇場	川崎市立労働会館サンピアンかわさき	341
たま・あさお市民劇場	川崎市多摩市民館	205
NPO 法人 鎌倉演劇鑑賞会	鎌倉芸術館	647
NPO 法人 茅ヶ崎演劇鑑賞会	平塚市中央公民館	488
NPO 法人 藤沢演劇鑑賞会	藤沢市湘南台文化センター　市民センター	522
ひらつか演劇鑑賞会	平塚市中央公民館	193
横須賀演劇鑑賞会	横須賀市はまゆう会館	124


04-1年齢
90代
0%
10代
0%
20代
1%
30代
1%
40代
2%
50代
5%
60代
28%
80代
12%
70代
51%


04-2職業
その他
6%
会社員
4%
公務員
4%
団体職員
1%
自営業
4%
専門職
1%
学生
0%
無職
35%
専業主婦
32%
パートアルバイト
13%


04-3コロナ禍での観劇回数の増減
無回答
4%
変わらない
40%
減った
54%
増えた
2%

アートキャラバン事業についての意見と感想

板橋

●本当に世の中困難があると演劇など文化が真っ先に打撃を受けてしまいます。この間の個人的な感想ですが、観劇会の再開が待ち遠しくまだかまだかと待っていました。こんな閉塞した時だからこそ文化が必要なのだと思います。乱れた心に潤いを与えてくれるのが文化（演劇）だと思っています。

王子

●演劇、音楽、文化に触れることは生きていくうえで欠かせないものです。市民が力を合わせてそれらを守り、発展させる取り組みがとても大切ですが、国や都が文化事業等をきちんと予算化し、発展させることが大切だと思います。

昭島

●人が集まり対話や会話をすることが制限されて 2 年を迎えます。対話や会話以外でミラーニューロンが放出される度合いが最も高いとされる演劇鑑賞。近くで文化的な演劇を三多摩で守り育てる素晴らしい事に思えます。演劇をもっと多くの人に観劇してもらうには、文化に政府の援助を期待します。

町田

●コロナ禍で生活全体が縮んできている感じがする。そんな中にアートキャラバンが応援してくれるってすごく嬉しい！ 力強い！ 演劇を観る機会があるってすごくありがたいことです。是非続けて欲しいことのひとつです。

川崎

●北海道旭川の市民劇場で 93 歳の母が見ています。ビックリした。市民劇場は、北は北海道、南は九州まであるのです。という事を知りました。日本中の人と演劇の話が出来る会をなくさないよう、演劇も少なくならないように、この取り組みは必要だと思います。

鎌倉

●生の舞台はそこに生身の人間、作られた舞台、道具、音楽、照明があって、他には変えられない感動があります。リモートや直接関わらない方法が研究されモテはやされるなか、生の舞台が端においやられることは、人の尊厳や生き方にまで影響すると思っています。

茅ヶ崎

●例会での観劇はコロナ中でも行くことが出来ていますが、それは近くで見ることが出来るからであり、電車に乗って１時間～の都内でしたら、行くという決断は出来ないと思いました。自転車や車で行ける生活範囲に劇団の方が来てくれて見ることが出来る事は生活にとって、豊かな事であると感じています。

藤沢

●演劇の灯は、一度消えてしまうと再びともすことが物理的に難しいと思います（人材が失われると元に戻るのが大変）。ぜひ、国の支援をお願いしたいです。文化活動は不要不急とは違うと思います。

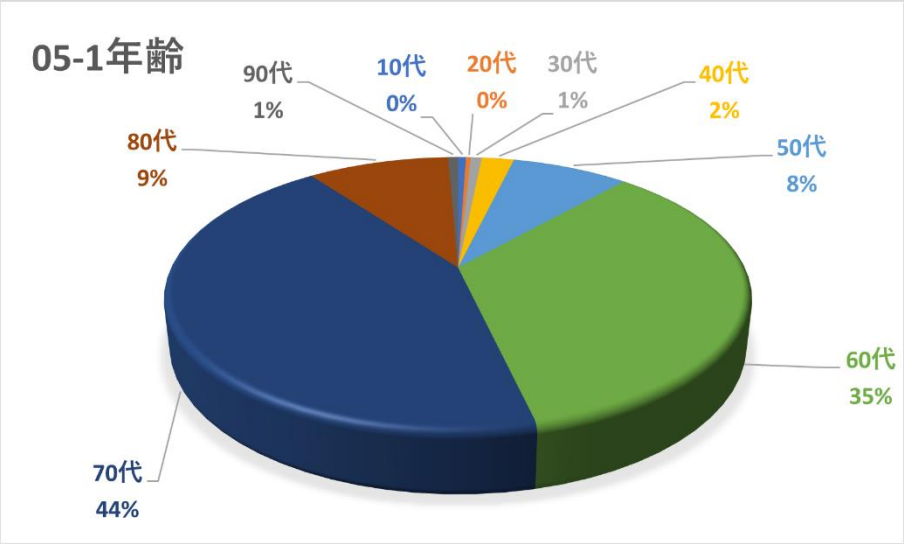
05 静岡県

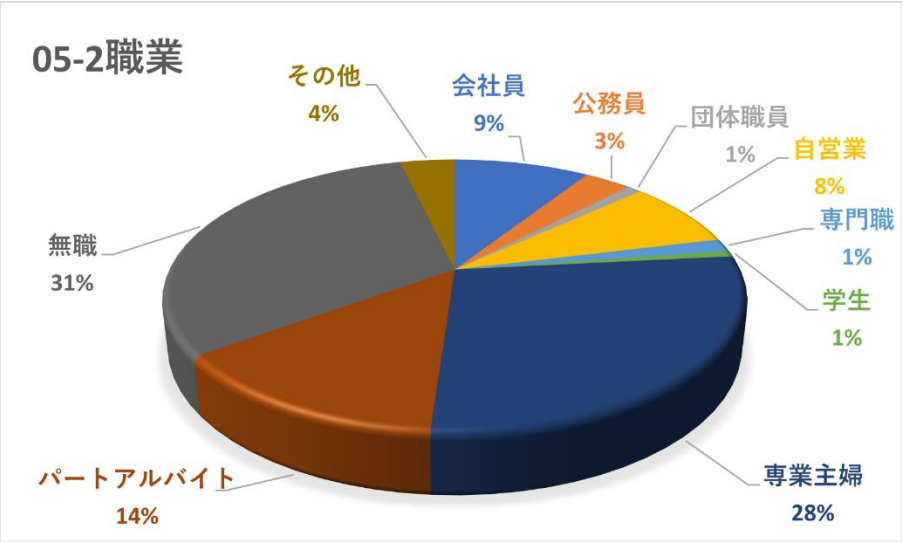
文学座「怪談 牡丹燈籠」

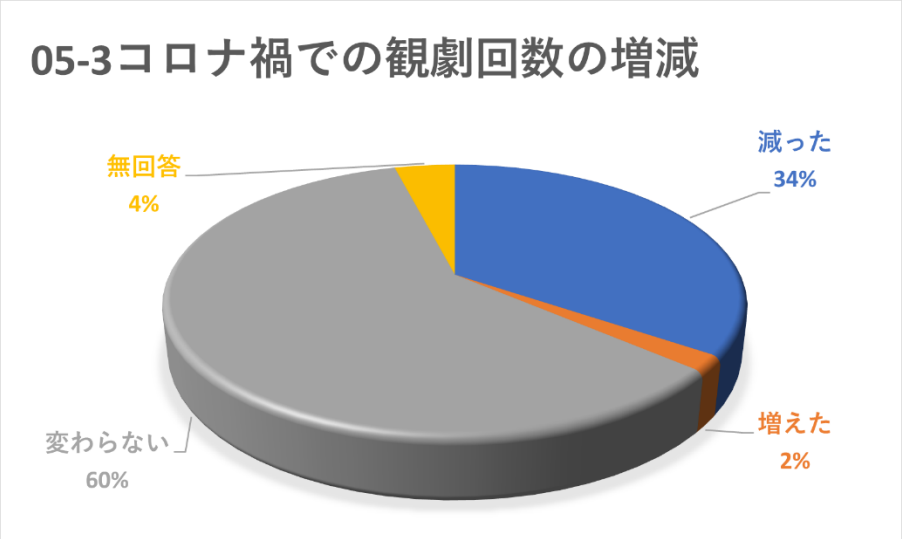
団体名	会場名	入場者数
伊豆市民劇場	沼津市民文化センター	162
沼津市民劇場		244
富士山演劇鑑賞会	富士市文化会館ロゼシアター	368
清水市民劇場	静岡市清水文化会館マリナート	265
NPO 法人 静岡市民劇場	静岡市民文化会館	611
藤枝市民劇場	藤枝市民会館	250
島田市民劇場	島田市民総合施設 プラザおおるりホール	284
浜松北市民劇場	浜松市浜北文化センター	433
浜松演劇鑑賞会	アクトシティ浜松 大ホール	1303

トム・プロジェクト「萩咲く頃に」

団体名	会場名	入場者数
下田市民劇場	下田市民文化会館	192
夢すてぃじ・いず	修善寺総合会館	163
伊豆市民劇場	三島市民文化会館（ゆうゆうホール）	161
沼津市民劇場		245
富士山演劇鑑賞会	富士市文化会館ロゼシアター	361
清水市民劇場	静岡市清水文化会館マリナート	274
NPO 法人 静岡市民劇場		621
島田市民劇場	島田市民総合施設 プラザおおるりホール	275
浜松北市民劇場	浜松市浜北文化センター	427
浜松演劇鑑賞会	浜松市勤労会館Ｕホール	1346


05-1年齢
90代
1%
10代
0%
20代
0%
30代
1%
40代
2%
50代
8%
80代
9%
60代
35%
70代
44%


05-2職業
その他
4%
会社員
9%
公務員
3%
団体職員
1%
自営業
8%
専門職
1%
学生
1%
無職
31%
パートアルバイト
14%
専業主婦
28%


05-3コロナ禍での観劇回数の増減
無回答
4%
減った
34%
増えた
2%
変わらない
60%

アートキャラバン事業についての意見と感想

沼津・三島

●公的支援は絶対に必要だと思います。そうでなくても生活に追われ、介護等で心が疲れている国民が増加しています。地方にいても心安らぐ時間をもてるよう、地方文化向上にむけてコロナ禍を乗り切る、苦しいときも共存していけるパワーを文化から得られるような社会に向けて今後も持続可能な鑑賞の機会推進支援をお願いします。

富士

●大きな都市部では、大小様々な劇場があり、演劇等にふれる機会がありますが、地方ではなかなか恵まれた環境になく、また、交通機関を使って大都市まで行くことも気が重くなります。国の支援でこの事業で、文化に接することが多くなることを願います。

清水

●演劇を楽しむことは日々の生活をより豊かにします。コロナ禍でなかなか県外に行くことが難しいのですが、地元で質の高い演劇を見る機会を増やすため、今後も国としての支援があると良いと思います。

静岡

●コロナ禍で県外の舞台芸術鑑賞機会がほとんどなくなってしまった為、近くで行われる公演の楽しみは減ってほしくないので、このような取り組みは頑張ってほしいと思います。

藤枝

●新型コロナの感染拡大と共に人が集まることは全て悪い事のように考えられているが、対策により防ぐことが可能なのは明白です。舞台芸術はこんな時と言われる中で生活の必需品となっています。芝居や音楽はどんな美しい映像でも音響でも生の場面にはかないません。今後、復構（間違いの字ではないです。再び、構築）は大切であり、文化がない生活は国にとって衰退を意味します。予算もありますが、必要性は十二分にあると思っています。

島田

●小学 5 年生の息子も会員で可能な限り一緒に観劇している。本も好きだが、生の舞台で育てられる想像力は他にはないと思う。ミュージカルの時は帰宅してから歌ったり難しい作品は図書館で調べて観劇したりして楽しんでいる様子。多くの子供たちが舞台に触れられる機会を増やしてほしいと思う。未来を生きる子供たちに芸術文化は必要なものだと国も気付いてほしい。

浜松北

●お芝居を見ると、人生の励みになったり小さな幸せを感じたりします。都会にいかずとも近いところでお芝居が見られる環境がなくなったらとてもさみしい。また、日本の文化に根付き脈々と続いてきた鑑賞運動を絶やしてはいけない。後世に残してほしい。

浜松

●多種多様の演目を網羅して、地方の私達に芸術性が高いものを提示してくださることに感謝します。コロナ禍では、十分な観劇もできないと思われますが、お陰様で浜松会場では無事に開催してくださることにまず感謝です。生きる力にとはまだほど遠いですが、そこに携わる方々のエネルギーを感じる機会にはなることで、あー良かったと思えるアートを期待しております。

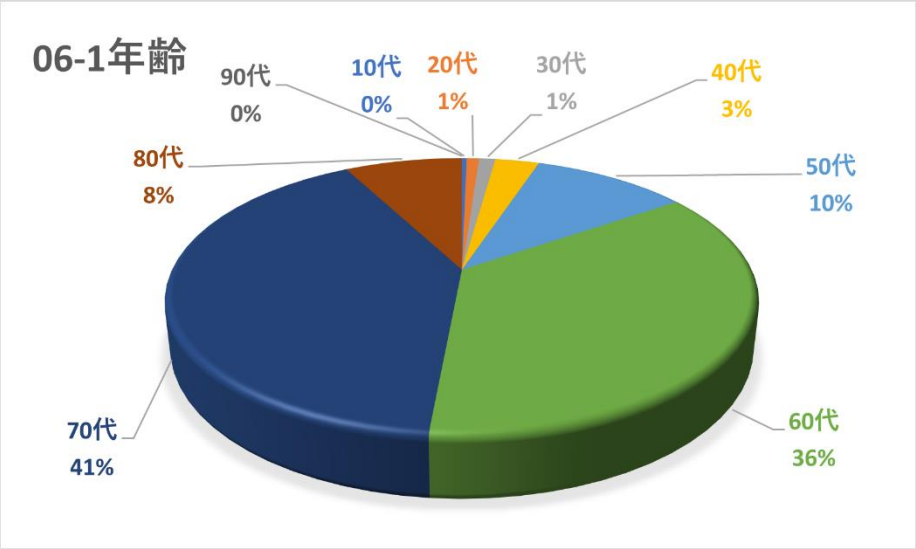
06 愛知県

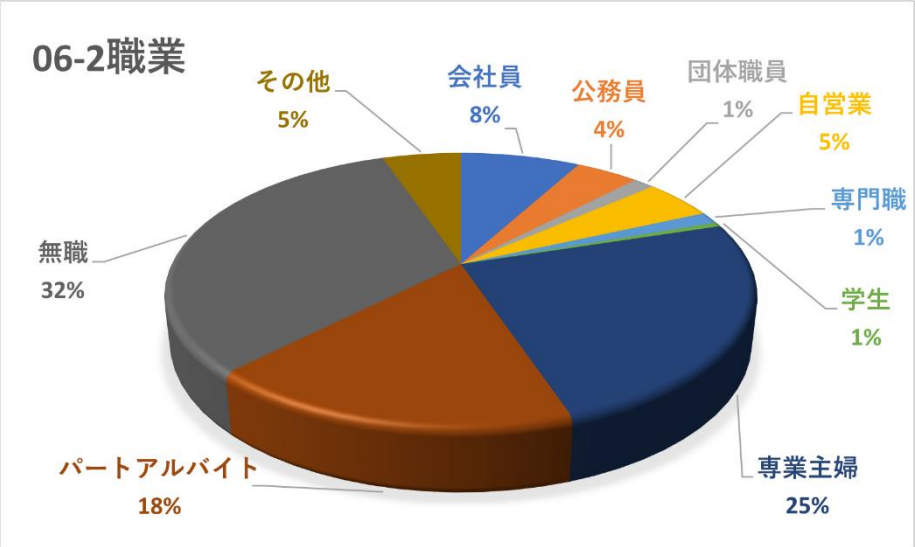
こまつ座「化粧二題」

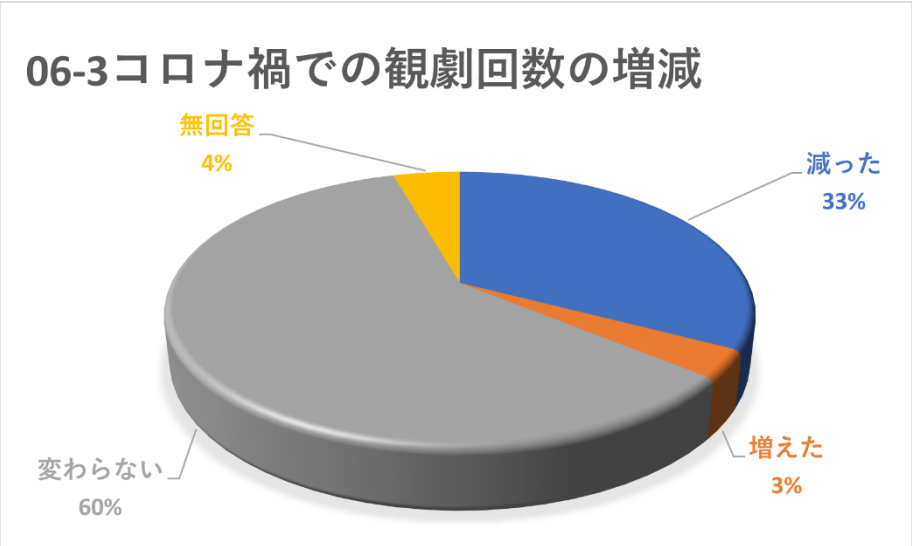
団体名	会場名	入場者数
名古屋演劇鑑賞会	ウインクあいち （愛知県産業労働センター）	1200
いなざわ演劇鑑賞会	名古屋文理大学文化フォーラム（稲沢市民会館）	656
豊橋演劇鑑賞会	穂の国とよはし芸術劇場 PLAT	1117
岡崎演劇鑑賞会	岡崎市民会館 あおいホール	264
幸田演劇鑑賞会	幸田町民会館 さくらホール	168
尾北演劇鑑賞会	Home＆nico ホール（江南市民文化会館）	411
ちた半島演劇鑑賞会	知多市勤労文化会館 つつじホール	387

劇団文化座「命どぅ宝」

団体名	会場名	入場者数
名古屋演劇鑑賞会	日本特殊陶業市民会館 ビレッジホール	1290
いなざわ演劇鑑賞会	名古屋文理大学文化フォーラム（稲沢市民会館）	673
豊橋演劇鑑賞会	穂の国とよはし芸術劇場 PLAT	1191
幸田演劇鑑賞会	幸田町民会館 さくらホール	171
尾北演劇鑑賞会	Home＆nico ホール（江南市民文化会館）	397
ちた半島演劇鑑賞会	知多市勤労文化会館 つつじホール	355


06-1年齢
90代
0%
10代
0%
20代
1%
30代
1%
40代
3%
50代
10%
60代
36%
70代
41%
80代
8%


06-2職業
その他
5%
会社員
8%
公務員
4%
団体職員
1%
自営業
5%
専門職
1%
学生
1%
専業主婦
25%
パートアルバイト
18%
無職
32%


06-3コロナ禍での観劇回数の増減
無回答
4%
減った
33%
増えた
3%
変わらない
60%

アートキャラバン事業についての意見と感想

豊橋

●大都市圏のみならず全国各地へ届けられる演劇を近いところで鑑賞出来ることは経済的にも、組織的にも文化庁の補助金は有効的だと思います。

岡崎

●私にとって演劇を含む文化の全般は、生きていく上で必要不可欠なものです。音楽会、映画、舞台……それぞれには裏方の方が大勢いらして、その人たちが生活出来ていく事こそが、文化を守ることにつながると思います。１人の力は小さいですが、そこに参加することで応援を続けたいと思っています。

幸田

●鑑賞会があるから芝居を観る機会がある。いろいろな芝居を見ることで新しい世界が開けたり、普段気づかずにいることを知ることもある。コロナ後も引き続きこの機会があるよう劇団が存続できる支援は必要だ。

名古屋

●もっと演劇に対して、ホールなどの芸術のあり方や劇団・創造団体の存続なども含めて、支援を継続的に行ってほしい。数少ない文化芸術に触れる機会をこれ以上減らさないようにしてください。

稲沢

●自分の好みに偏らない幅広い視野で、しかも高品質の演劇が見られる、こういった機会を無くさないでほしい。若い世代にも引き継がれていってほしいと思います。

江南

●コロナ禍の中、芸術に触れる機会が減ってしまっています。創造団体もきびしい経営状況にあると思われます。日本の文化の灯を消さないよう、国を挙げての支援がもっともっと必要だと思います。

知多

●このような取り組みはもっともっとやってほしい。芸術や芸能がコロナ禍でなくなってしまうのではないかと恐怖を感じていました。今日この舞台をみることができ、舞台芸術に触れる喜びをひしひしと感じています。

07 長野県、岐阜県、三重県

劇団銅鑼「花火鳴らそか ひらひら振ろか」

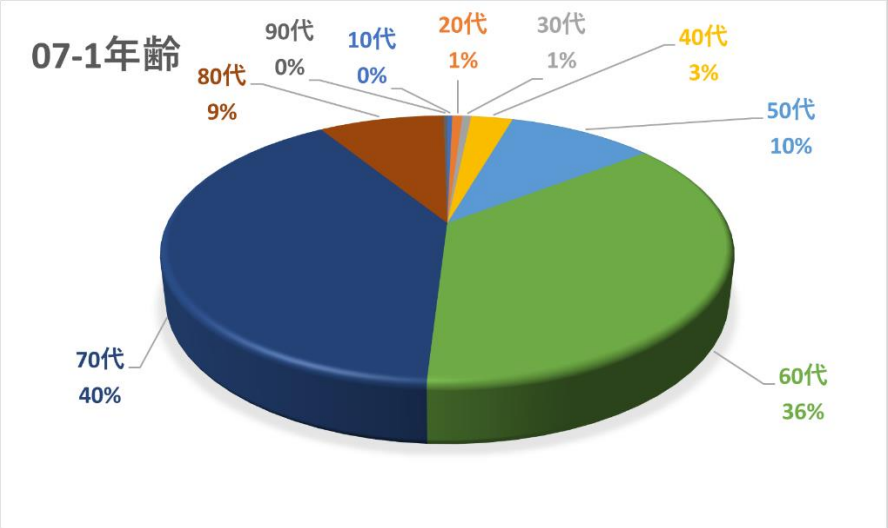
団体名	会場名	入場者数
長野市民劇場	ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）	283
まつもと市民劇場	まつもと市民芸術館	720
上田市民劇場	サントミューゼ（上田市交流文化芸術センター）	379
すわ湖市民劇場	下諏訪総合文化センター	203
伊那市民劇場	長野県伊那文化会館	354
いいだ市民劇場	飯田文化会館	103
北アルプス市民劇場	大町市文化会館	174

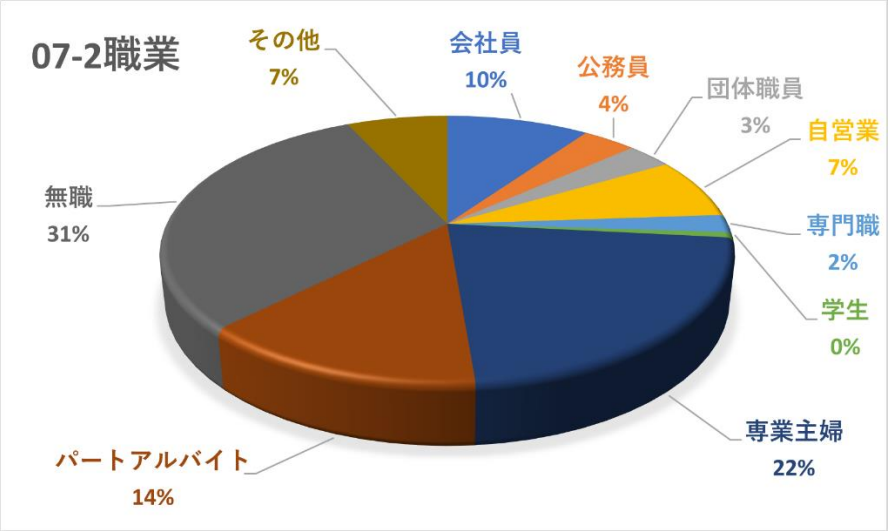
こまつ座「化粧二題」

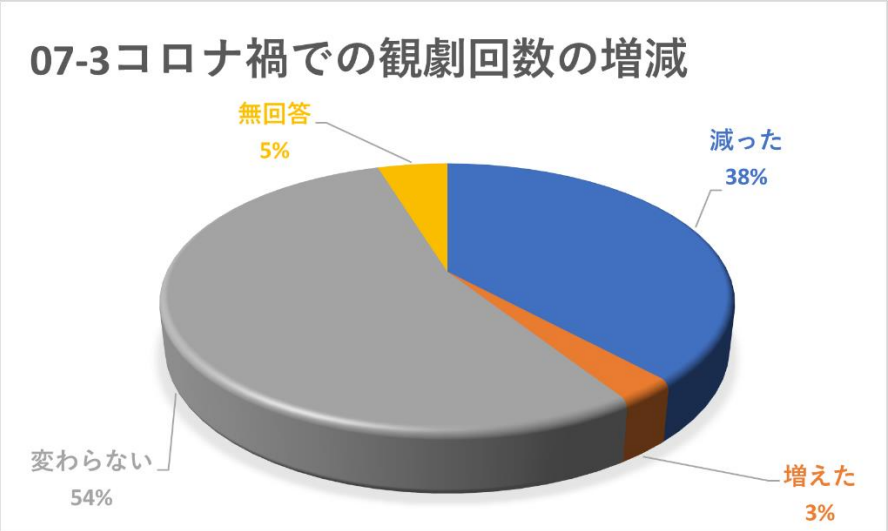
団体名	会場名	入場者数
岐阜勤労者演劇協議会	岐阜市民会館	735
津演劇鑑賞会	三重県総合文化センター三重県文化会館	328
いせ演劇鑑賞会	シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢（伊勢市観光文化会館）	366

劇団文化座「命どぅ宝」

団体名	会場名	入場者数
長野市民劇場	ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）	310
まつもと市民劇場	まつもと市民芸術館	764
上田市民劇場	サントミューゼ（上田市交流文化芸術センター）	365
伊那市民劇場	長野県伊那文化会館	401
岐阜勤労者演劇協議会	岐阜市民会館	980
津演劇鑑賞会	三重県総合文化センター三重県文化会館	348
いせ演劇鑑賞会	シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢（伊勢市観光文化会館）	359


07-1年齢
90代
0%
10代
0%
20代
1%
30代
1%
40代
3%
80代
9%
50代
10%
70代
40%
60代
36%


07-2職業
その他
7%
会社員
10%
公務員
4%
団体職員
3%
自営業
7%
無職
31%
専門職
2%
学生
0%
専業主婦
22%
パートアルバイト
14%


07-3コロナ禍での観劇回数の増減
無回答
5%
減った
38%
変わらない
54%
増えた
3%

アートキャラバン事業についての意見と感想

長野

●観る側もですが、劇団のご苦労を考えると存続のための支援が欠かせないと思います。そして観劇により劇団員と一緒に造る心通う空間が今一番大切なことだと感じます。ＴＶ・映画、リモートなど一方的な情報で人として大切な心の疲弊している今だから、きっちりと支援してほしいです。

松本

●芸術鑑賞すると脳が健康になる。ある冊子で読みました。感動すると眉間の奥、内側、眼窩前頭皮質が活性化。すると〝やる気脳〟を育てる神経回路が働いてくれるそうです。沢山美しい物を見たり聞いたり演劇鑑賞し、脳を活性し人生 100 年をめざし元気で過ごしましょう。市民劇場の大切さが身にしみます。

上田

●コロナ禍の中、観劇したくても集まること自体がこわくて行けないこともあった。劇団の皆さんのご苦労を知り、感染対策をして観劇を続けることの大変さ、大切さを感じた一年だった。よりよい舞台を身近で見続けられるよう国の援助も必要だと思う。

諏訪

●コロナを恐れることはない。人間の力を寄せるチャンスだ、諦めることはできない。劇団の方々の終演の涙、私も涙。生きる事は諦めず共に心を寄せ前に進む。新しい自分との出会いどこまでも、まずは愉しむ年を重ねることに。

伊那

●劇団の方々が安定して生活出来、演劇に没頭される状況を望みます。私たち鑑賞する立場として、地元に居ながら文化に触れ、心豊かに安心して観続けられる環境が今回の文化庁の支援を頂けること、本当に心強いです。今後も日本の文化活動のためにも引き続きの支援を期待したいです。

大町

●北アルプス市民劇場に入会していろいろな劇団の作品を鑑賞できるので、いつも楽しみです。ヨーロッパのように国が芸術に対して支援するべきだと思っています。コロナ禍において、さらに強く感じます。

岐阜

●このような支援はコロナ禍の日本の文化芸術を守り発展させる意味で絶対に必要。特に都市と地方との文化の格差がこれ以上広がらないようにするためにも、この事業に大いに賛同します。

津

●地方にあって一流の舞台を観続けることができる機会は他にありません。とても重要な取組だと思います。

伊勢

●舞台芸術一般が人口の多い都市でしか経済的に成立しづらいことが、日本の舞台芸術の発展を阻害しているように思います。この問題の一つの解決策としてアートキャラバン事業は大いに貢献するように思います。

08 富山県、石川県、福井県

こまつ座「化粧二題」

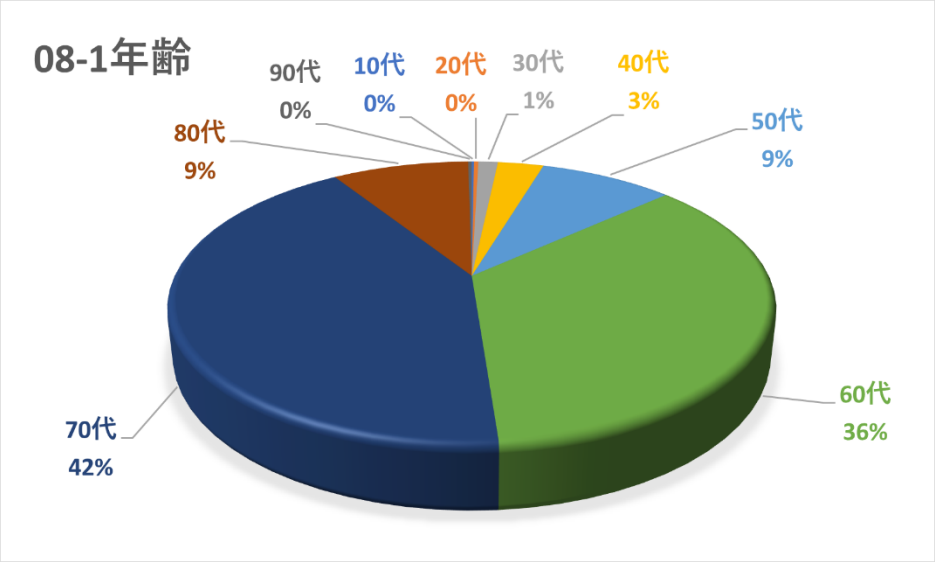
団体名	会場名	入場者数
富山演劇鑑賞会	富山県民会館	870
高岡演劇鑑賞会	富山県高岡文化ホール	765
となみ演劇鑑賞会	砺波市文化会館	975
魚津演劇鑑賞会	新川文化ホール（ミラージュホール）	418
金沢市民劇場	金沢市文化ホール	907
	野々市市文化会館フォルテ	

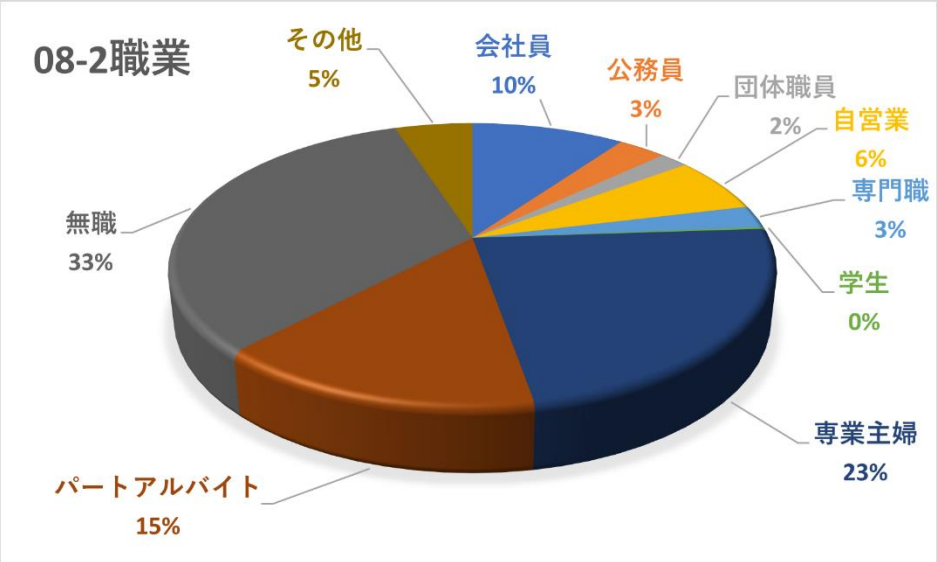
劇団民藝「篠田三郎・樫山文枝 文学の夕べ」

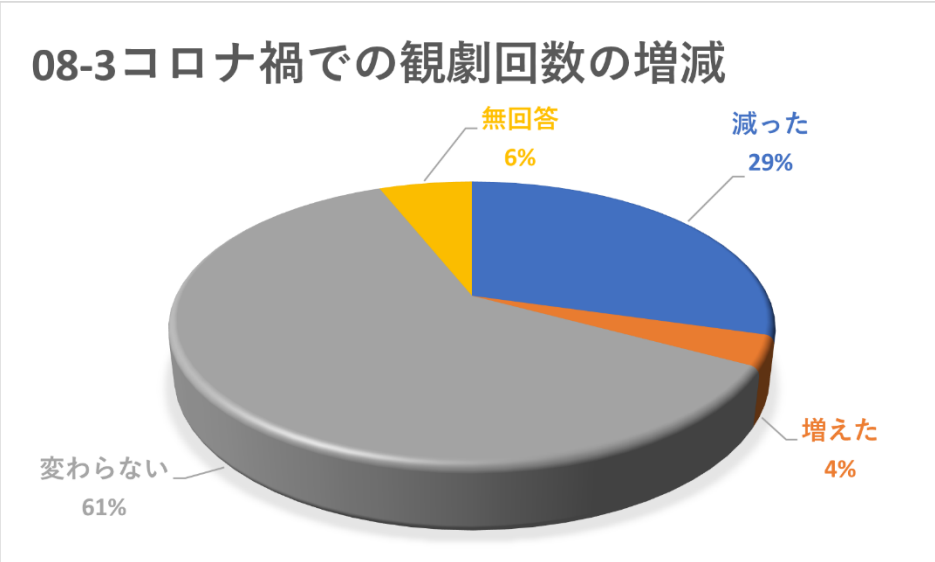
団体名	会場名	入場者数
福井新聞社	福井県県民ホール	260

劇団文化座「命どぅ宝」

団体名	会場名	入場者数
富山演劇鑑賞会	富山県民会館	810
高岡演劇鑑賞会	富山県高岡文化ホール	707
となみ演劇鑑賞会	砺波市文化会館	970
魚津演劇鑑賞会	新川文化ホール（ミラージュホール）	408
金沢市民劇場	金沢市文化ホール	813
	野々市市文化会館フォルテ	
七尾演劇鑑賞会	七尾市文化ホール	287


08-1年齢
90代
0%
10代
0%
20代
0%
30代
1%
40代
3%
50代
9%
80代
9%
60代
36%
70代
42%


08-2職業
その他
5%
会社員
10%
公務員
3%
団体職員
2%
自営業
6%
専門職
3%
学生
0%
専業主婦
23%
パートアルバイト
15%
無職
33%


08-3コロナ禍での観劇回数の増減
無回答
6%
減った
29%
増えた
4%
変わらない
61%

アートキャラバン事業についての意見と感想

富山

●芸術は国が支えていくことで未来へと継承されると思う。コロナの時期はもとより、その後も国による支援が行われることで演劇を多くの人に見てもらう機会が増えたり、劇団の方々の待遇が改善されたりすることを願う。

高岡

●地方に居住しているとなかなか舞台に接する事がありません。この様な企画は大変有意義です。生の舞台は劇団員の方々の熱意が感ぜられ、又観客との一体感がたまらなく喜ばしいです。リモート鑑賞では不可能です。

魚津

●近くで見られることは、何より嬉しいことです。その為にひとりひとりがやれることを本気で取り組んで行きたいものです。流されることは簡単ですけど良いことを切り開いて行くことは困難がありますが生きる喜びであります。

砺波

●県をまたいだ移動のできない（できにくい）ご時世だからこそ、地元で観劇できることの重要性をあらためて強く感じました。開催に尽力して下さる方々に、心から感謝し、文化芸術が多くの人々に浸透していくことを願っています。

金沢

●演劇は心の栄養。健康を保つには大切。観劇する私達が健康になるには栄養を運んでくれる劇団が元気でなくてはならない。それなのに、役者、裏方、すべての人が公演する機会がなくなり大変になった。鑑賞する私達も観られず大変。こんな時こそ支援して欲しい。

09 大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県

劇団民藝「篠田三郎・樫山文枝 文学の夕べ」

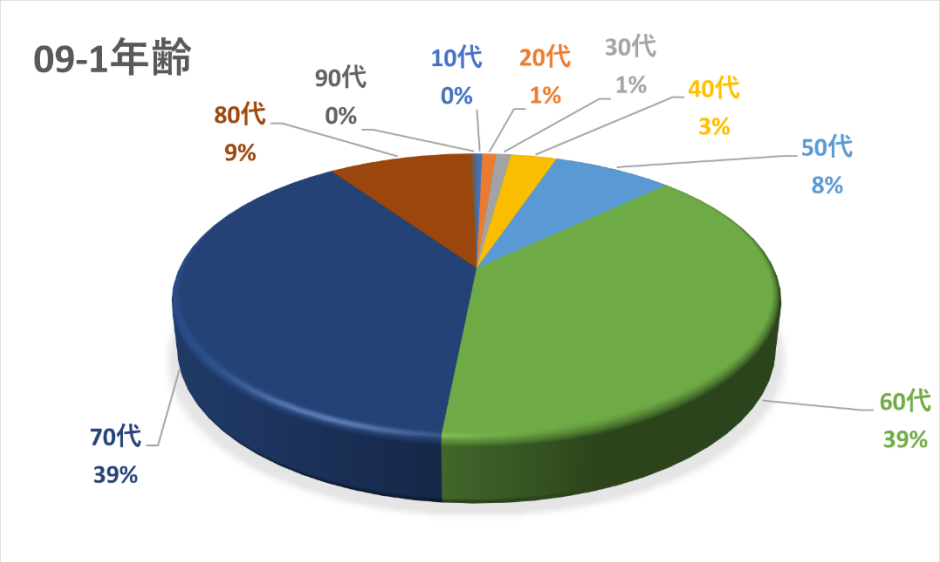
団体名	会場名	入場者数
和歌山演劇鑑賞会	和歌山市民会館	1107

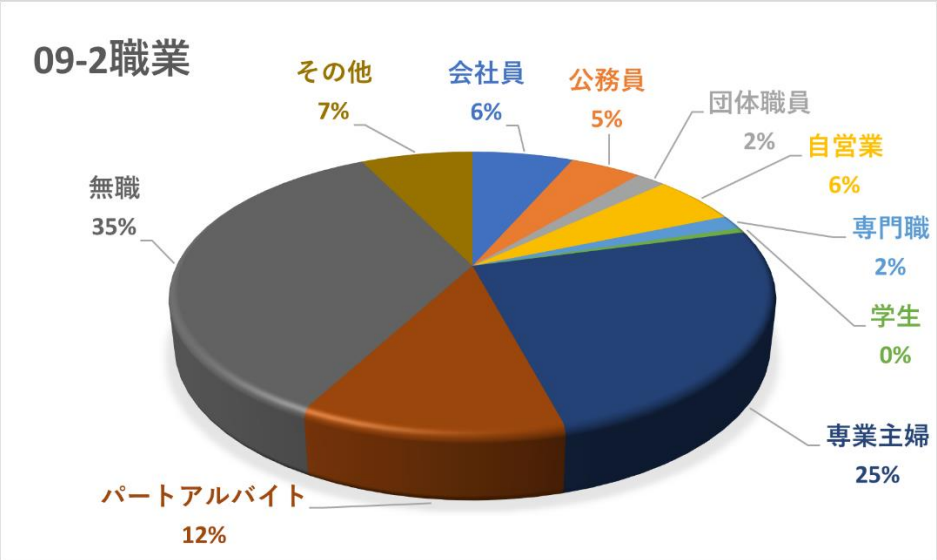
オペラシアターこんにゃく座「オペラ イヌの仇討あるいは吉良の決断」

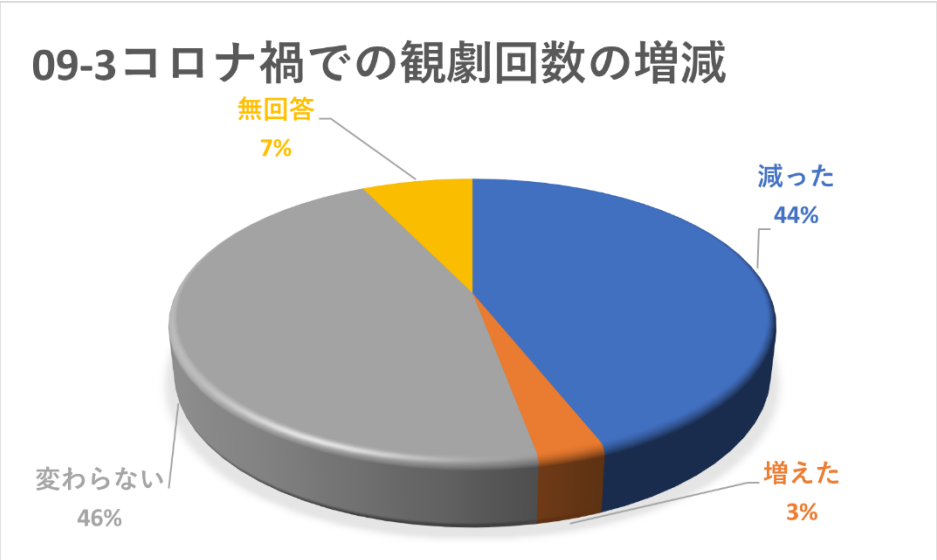
団体名	会場名	入場者数
京都勤労者演劇協会	京都府立文化芸術会館	731
神戸演劇鑑賞会	神戸文化ホール	1065
紀北演劇鑑賞会	紀の川市粉河ふるさとセンター	251
泉南演劇鑑賞会	阪南市立文化センター サラダホール	512
奈良演劇鑑賞会	ＤＭＧ ＭＯＲＩ やまと郡山城ホール	758
ひこね演劇鑑賞会	ひこね市文化プラザ グランドホール	276

無名塾「左の腕」

団体名	会場名	入場者数
京都勤労者演劇協会	京都府立文化芸術会館	823
神戸演劇鑑賞会	神戸文化ホール	1149
和歌山演劇鑑賞会	和歌山市民会館	1262
紀北演劇鑑賞会	紀の川市粉河ふるさとセンター	289
泉南演劇鑑賞会	阪南市立文化センター サラダホール	561
奈良演劇鑑賞会	ＤＭＧ ＭＯＲＩ やまと郡山城ホール	789
ひこね演劇鑑賞会	ひこね市文化プラザ グランドホール	337


09-1年齢
90代
0%
10代
0%
20代
1%
30代
1%
40代
3%
50代
8%
60代
39%
70代
39%
80代
9%


09-2職業
その他
7%
会社員
6%
公務員
5%
団体職員
2%
自営業
6%
専門職
2%
学生
0%
専業主婦
25%
パートアルバイト
12%
無職
35%


09-3コロナ禍での観劇回数の増減
無回答
7%
減った
44%
増えた
3%
変わらない
46%

アートキャラバン事業についての意見と感想

京都

●アートキャラバン事業、今回初めて接した言葉です。アートキャラバンは文化庁の事業であるとのことで、補助金の支えがあることは心強いことです。長く持続可能な事業として位置付けて欲しい。

神戸

●文化も経済も東京一局集中ではなく、地方に根ざした鑑賞会の運動は大事。コロナ禍、文化芸術分野は大打撃を受けたが、昨年 8 月以降いち早く鑑賞会の活動が再開できたのも劇団と鑑賞会、鑑賞会と地域のつながりがあったからこそ。その上で今回のような助成があればより発展の礎となる。

奈良

●芸術はこんな時だからこそ心を満たしてくれる。若い人達にも学校公演にも、演劇を見るための補助援助を出して欲しい。人間の総合的な発達、感性を磨く為、芸術文化はなくてはならないものだと思う。

阪南

●アートキャラバン事業のパンフレットの全ページ裏表全部読んでみました。主旨に賛同し内容に感動しました。文化庁を通して観劇を通して自分との接点がこんな身近に存在することに感謝です。

紀の川

●地方に住まう身として、演劇鑑賞会の機会は貴重です。この事業によってその機会が少しでも増えることを願っています。

和歌山

●鑑賞会はコロナ前からこの社会状況の中で本当に大変厳しい状態でした。その上にこのコロナ禍の中で大きな打撃を受けました。コロナが収まった後でも公的な文化支援は必要だと思うし、同時に私たちにも文化を自分たちの手で広げていこうという思いと行動も両方必要だと思っています。

彦根

●ひこね演劇鑑賞会もコロナ禍、会員が激減し例会の回数も 5 回から 3 回にせざるを得なかったが、文化庁の支援があることで辛うじて 4 回の実施が可能になった。更に会員減を少しでも食い止められるのではと期待。国はもっともっと文化芸術の推進・発展に積極的に取り組むべきと思う。

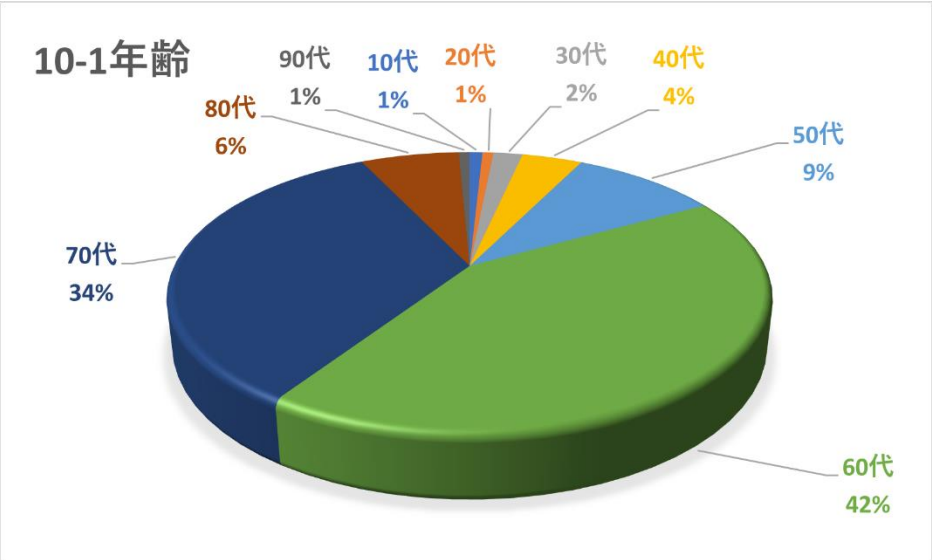
10 岡山県

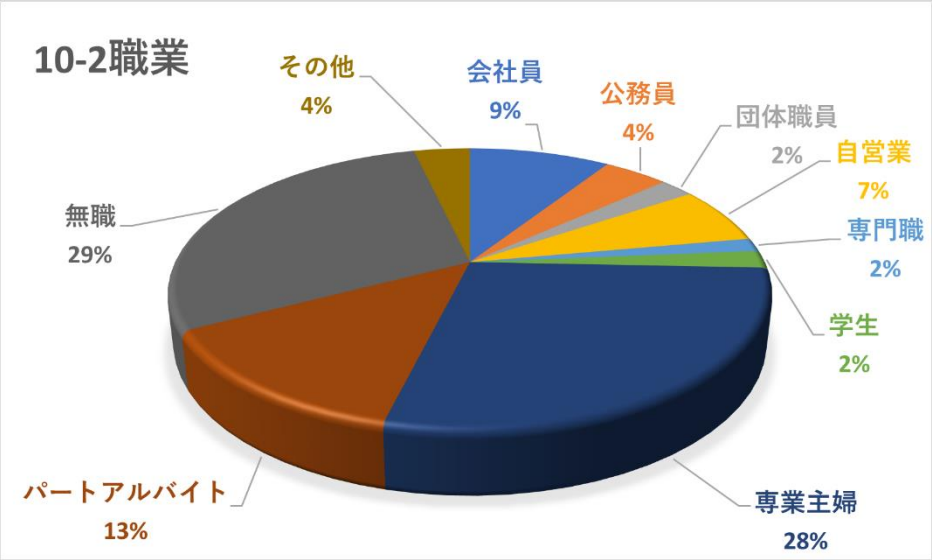
劇団東演「マクベス」

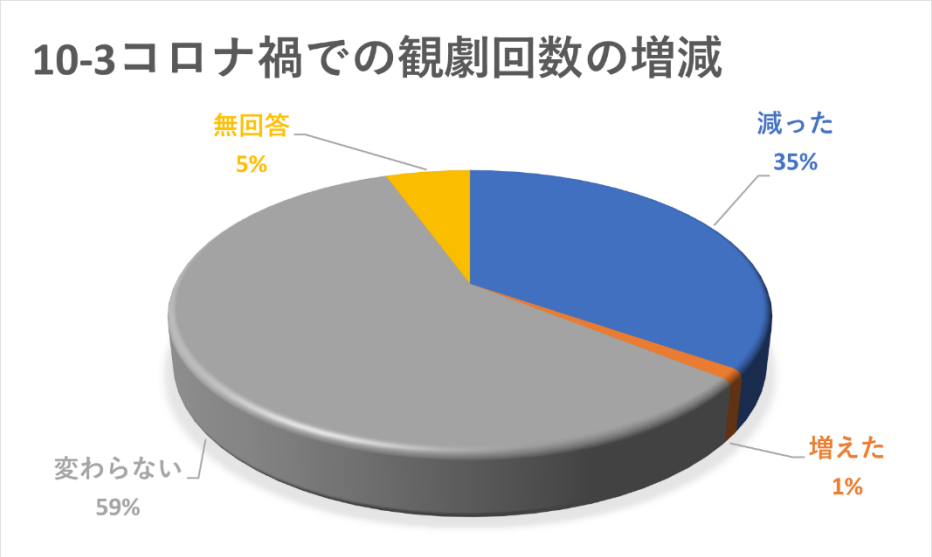
団体名	会場名	入場者数
岡山市民劇場	岡山市民会館	2319
	岡山市立市民文化ホール	
西大寺市民劇場	岡山市立西大寺公民館	667
倉敷演劇鑑賞会	倉敷市芸文館	855
	倉敷市玉島文化センター	312

文学座「怪談 牡丹燈籠」

団体名	会場名	入場者数
岡山市民劇場	岡山市民会館	2169
西大寺市民劇場	岡山市立西大寺公民館	665
倉敷演劇鑑賞会	倉敷市芸文館	817
	倉敷市玉島文化センター	371


10-1年齢
90代
1%
10代
1%
20代
1%
30代
2%
40代
4%
50代
9%
60代
42%
70代
34%
80代
6%


10-2職業
その他
4%
会社員
9%
公務員
4%
団体職員
2%
自営業
7%
専門職
2%
学生
2%
専業主婦
28%
パートアルバイト
13%
無職
29%


10-3コロナ禍での観劇回数の増減
無回答
5%
減った
35%
増えた
1%
変わらない
59%

アートキャラバン事業についての意見と感想

岡山

●生きるためには「衣食住」が必要ですが、それだけではとても我慢できないと思っております。今こそ芸術が必要な時だと実感しております。地方に居ても質の高い作品が鑑賞できますようこれからもこのような取り組みを是非続けて下さいますようお願いいたします。

●コロナ前とくらべて私自身の観劇に対する感受性が高まっているように思うこの頃です。知らず知らずのうちにコロナ禍による閉塞状態で心身が傷ついているなあと感じています。そんな中で観る、生の演劇のすばらしさに感動をいただいています。それは作品から受け取るメッセージや、この困難な状況の中で、舞台をつくり上げてこられる演劇人の頑張りも強く感じているからだと思います。地方に居ながら、すばらしい舞台に出会える喜びは、市民劇場の会員であるからこそとも思います。このアートキャラバン事業が私たちの鑑賞機会を支えてくださっていることに心から感謝しています。

倉敷

●多くの演者さんたち、スタッフの方々、関係者の方々が安全かつ安定した生活がおくれ、素晴らしい作品を創り上げ多くの人々に感動を与えてくれる事業を大切にしていく必要があると思う。

●コロナ禍で文化が危うく思える時代になってきました。手に取る、目で直接観る、肌で感じる事が少なくなり、これで良いのか不安です。本物を直接、観てふれる事が大切だと思っています。

西大寺

●一度きりのことでなく常に文化・芸術に対する国(文化庁)のありようが問われているのではないかと思います。欧米にくらべて日本の文化水準の低さがコロナ禍で露呈したのはとても残念ですが、そこをなんとか上げていきたい。それが鑑賞会、市民劇場の存在意義かなと思います。

●市民劇場、演劇鑑賞会は、日本独自の文化活動であり、その燈明を消すことがない様に国の支援もお願いします。

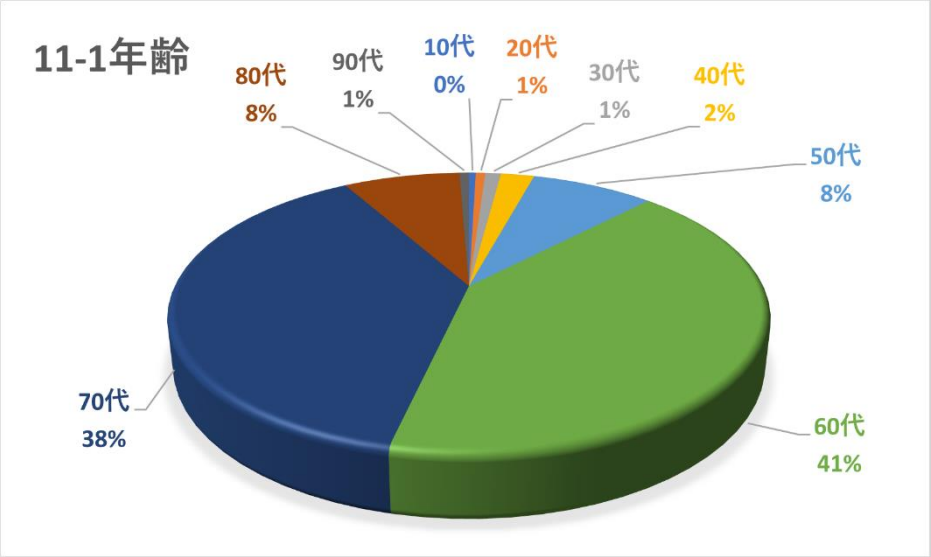
11 広島県、島根県、鳥取県

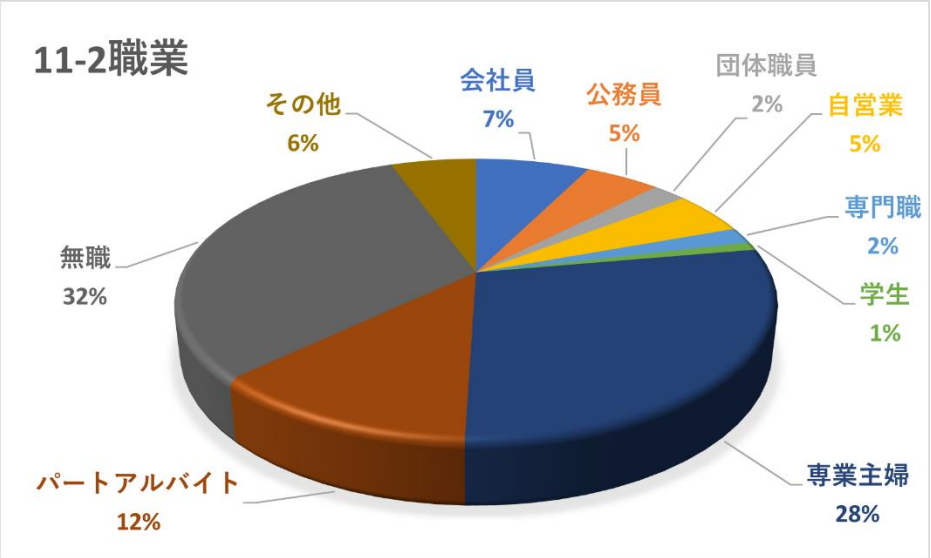
劇団東演「マクベス」

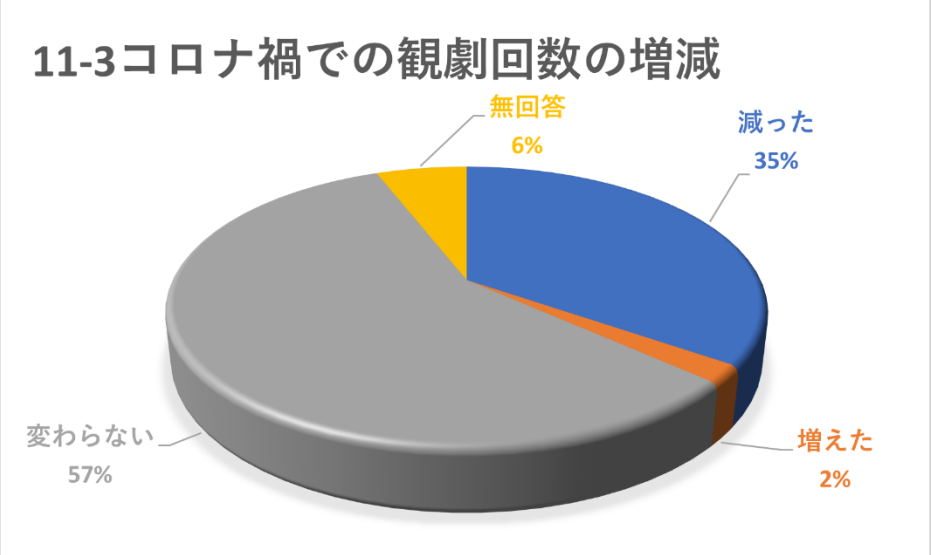
団体名	会場名	入場者数
広島市民劇場	JMS アステールプラザ	1058
安佐南市民劇場	マエダハウジング安佐南区民文化センター	805
鳥取演劇鑑賞会	鳥取市民会館	363
米子市民劇場	米子市公会堂	393
松江市民劇場	島根県民会館	464
いずも演劇鑑賞会	出雲市民会館	564

文学座「怪談 牡丹燈籠」

団体名	会場名	入場者数
広島市民劇場	JMS アステールプラザ	965
安佐南市民劇場	マエダハウジング安佐南区民文化センター	830
呉市民劇場	新日本造機ホール（呉市民ホール）	376
福山市民劇場	ふくやま芸術文化ホール　リーデンローズ	515
鳥取演劇鑑賞会	鳥取市民会館	338
米子市民劇場	米子市公会堂	385
松江市民劇場	島根県民会館	437
いずも演劇鑑賞会	出雲市民会館	536


11-1年齢
80代
8%
90代
1%
10代
0%
20代
1%
30代
1%
40代
2%
50代
8%
60代
41%
70代
38%


11-2職業
その他
6%
会社員
7%
公務員
5%
団体職員
2%
自営業
5%
専門職
2%
学生
1%
無職
32%
パートアルバイト
12%
専業主婦
28%


11-3コロナ禍での観劇回数の増減
無回答
6%
減った
35%
変わらない
57%
増えた
2%

アートキャラバン事業についての意見と感想

広島

●自然な世の中の動きにまかせて新しい流れが自然に生まれるのも良いが、良い物に触れることなく、その良さ、素晴らしさを知ることなく消えていくものも多いと思います。伝統芸術・伝統文化には国も財政的にも支援しながら保存に努めてますが、そうでない素敵な良きものにも国は支援して、できるだけ多くの人が触れる機会をつくることは大変有意義、大事なことだと考えます。知って、その良さを引き継ぐ、拡大する営みこそ文化の継承といえるのではないでしょうか。

安佐南

●今、演劇などが大変だが、芸術や文化は大切なので、観る側も機会が失われることがないように、こういう活動があるというのはいいと思います。

福山

●美しいもの、心豊かにするものをもっと多くの人と一緒に分かち合いたい。それがいつか必ず、美しく、豊かな社会につながると信じている。コロナが終息してもこのような活動を続けて欲しい。

松江

●とても重要だと思います。傷ついた心をいやす意味でも、これまで見なかった、気付けなかった世の中や、人の心に気づく機会を作るためにもとても大事なものです。

出雲

●地方で演劇を観ること。いろいろな状況で集客も不足する一方で舞台にふれる喜びや感動を味わうためにも支援は必要かなと思います。

鳥取

●この 2 年間コロナのパンデミックで殺伐とした気持ちや、うつっぽい精神状態となっているが、やっぱりそれに対しての特効薬は文化的なものに触れることです。精神面の潤滑油です。

米子

●人はただ生きているだけではありません。コロナ禍であればなおさら。日々の生活にアクセントが必要なのです。そのアクセントがあればこそ、日々の生活をより豊かなものに出来るのです。私にとってのアクセントは演劇であったりライブであったりします。今回のアートキャラバン事業はそんな私にとってなくてはならない大切な事業なのです。引き続きよろしくお願いします。

12 山口県（周南市、柳井市）、徳島県、香川県、愛媛県、高知県

人形劇団プーク「オッペルと象」

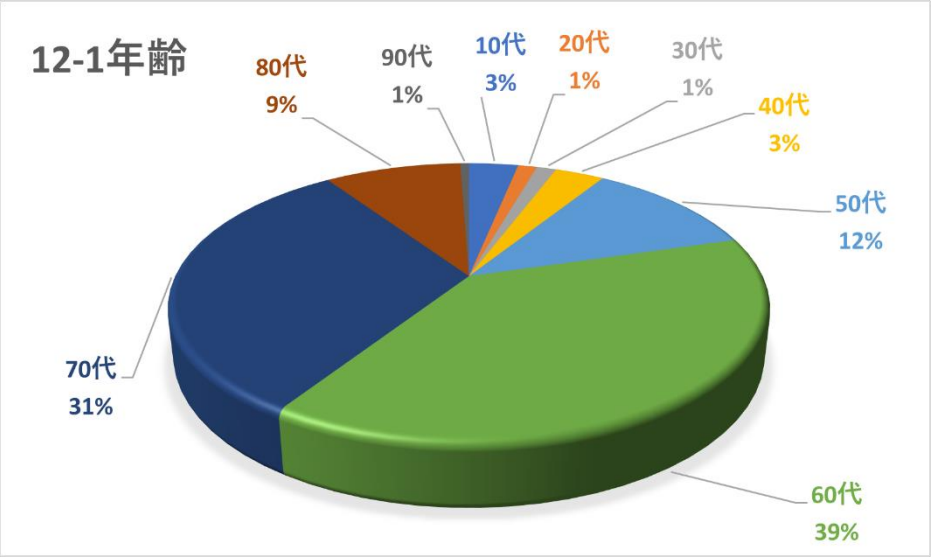
団体名	会場名	入場者数
香川市民劇場	レクザムホール（香川県県民ホール）	458
徳島市民劇場	あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）	371
鳴門市民劇場	藍住町総合文化ホール	311
高知市民劇場	高知市文化プラザかるぽーと	802
松山市民劇場	愛媛県県民文化会館	361
いまばり市民劇場	今治市公会堂	156

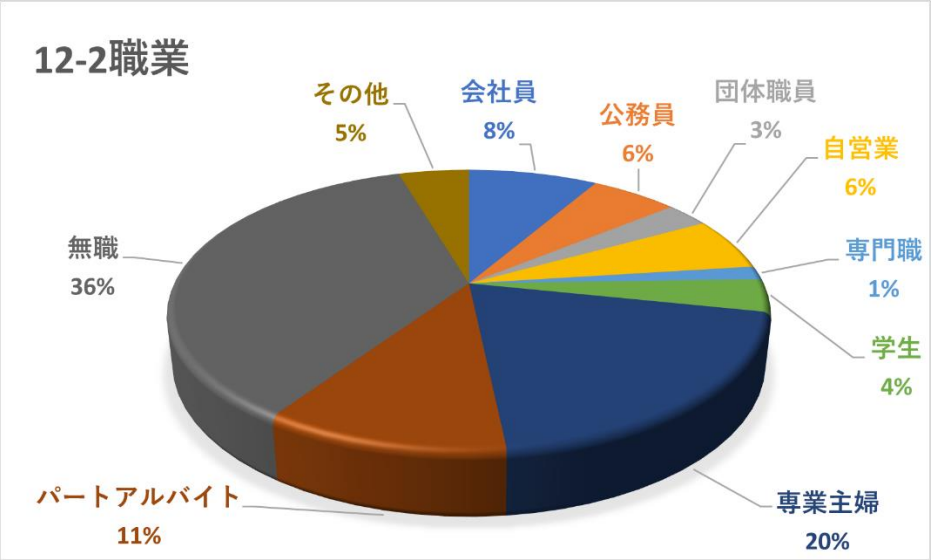
劇団東演「マクベス」

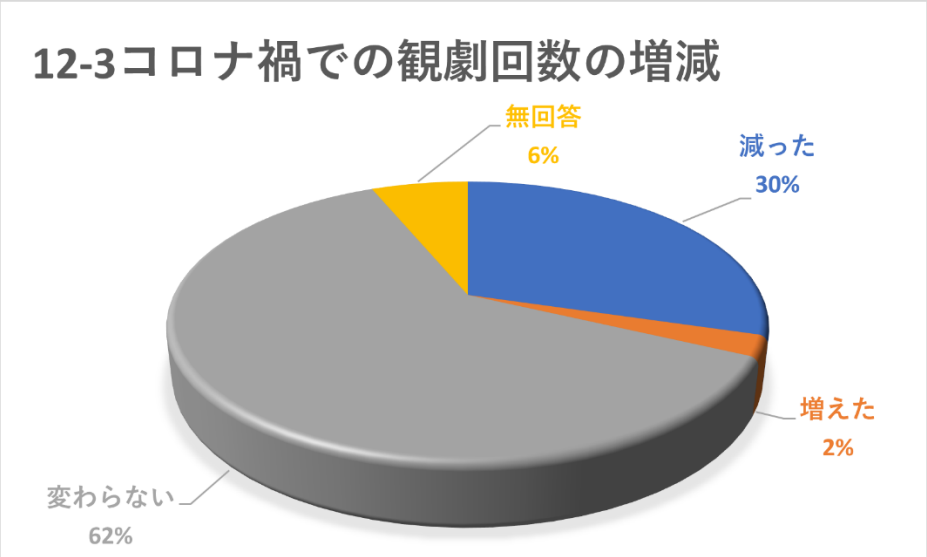
団体名	会場名	入場者数
周南市民劇場	周南市文化会館	651
	サンビームやない	370
香川市民劇場	レクザムホール（香川県県民ホール）	487
徳島市民劇場	あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）	428
鳴門市民劇場	藍住町総合文化ホール	323
高知市民劇場	高知県民文化ホール オレンジホール	820
松山市民劇場	松山市総合コミュニティセンター	405

文学座「怪談 牡丹燈籠」

団体名	会場名	入場者数
周南市民劇場	周南市文化会館	656
	サンビームやない	370


12-1年齢
80代
9%
90代
1%
10代
3%
20代
1%
30代
1%
40代
3%
50代
12%
70代
31%
60代
39%


12-2職業
その他
5%
会社員
8%
公務員
6%
団体職員
3%
自営業
6%
専門職
1%
学生
4%
専業主婦
20%
パートアルバイト
11%
無職
36%


12-3コロナ禍での観劇回数の増減
無回答
6%
減った
30%
増えた
2%
変わらない
62%

アートキャラバン事業についての意見と感想

周南・柳井

●素晴らしい取り組みだと思います。今後とも日本の文化芸術の必要性や魅力を広めるためにも行政には支援をお願いしたい。芸術はよりよく生きる力、実感です。

高松

●コロナの中で文化を守って継続していくのは本当に大変なことだと思っています。市民劇場も劇団も共にこのコロナ禍を乗り越えるために頑張っていくための支援は本当にありがたいことです。文化、演劇がコロナと戦うみんなの心の支えとなれるように頑張りましょう！！

徳島

●コロナ禍で集まること自体に制限がかけられることが主流になりました。中止によりコミュニケーションが取れない事でのデメリットの方が大きいと思います。感染対策をしっかりとした上での上演は非常に大切と考えます。外出を控えることで刺激が減り、メンタル上でも不安など症状を訴える方も多くいます。心の栄養は必要ですよね。

鳴門

●くずれるのは早いが、元に返るのは大変だと思う。地道に努力することが、今出来ることではないでしょうか。１人の力は小さいが、多くが力を合わせるために、頑張りましょう。

松山

●感染対策するだけでも多くの準備、お金もかかります。密を避けるため定員が少なくなることで収入が減り、会場を広くすると会場費がかさみ、それだけでも経費が大変です。安心して観劇ができる公演が増えるよう幅広い支援が受けられることを望みます。

今治

●文化なくして人間らしい生活はあり得ないですね。コロナ禍でこの大切なものが途切れないよう、消えないよう、あらゆる努力がなされるべきです。

高知

●人はお芝居を見ることで気持ちが豊かになる。そのことで社会をも豊かになると考える。人間関係がスムーズに行く。コミュニケーションもうまく行くのではないだろうか。

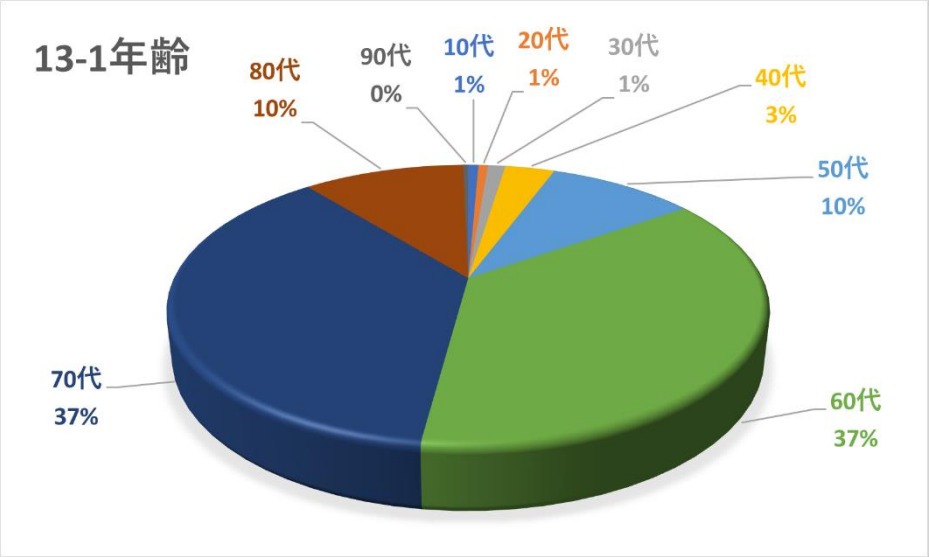
13 山口県下関市、福岡県北九州市、大分県

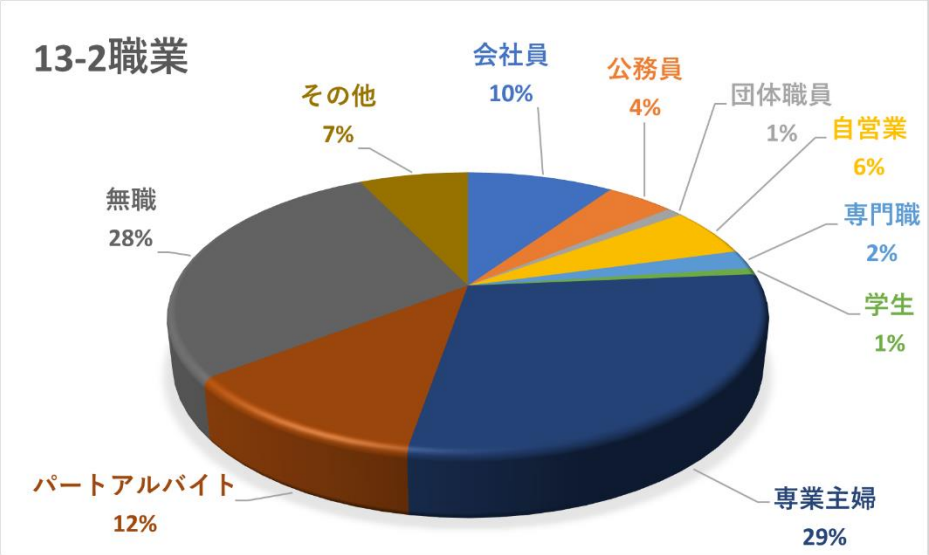
劇団民藝「泰山木の木の下で」

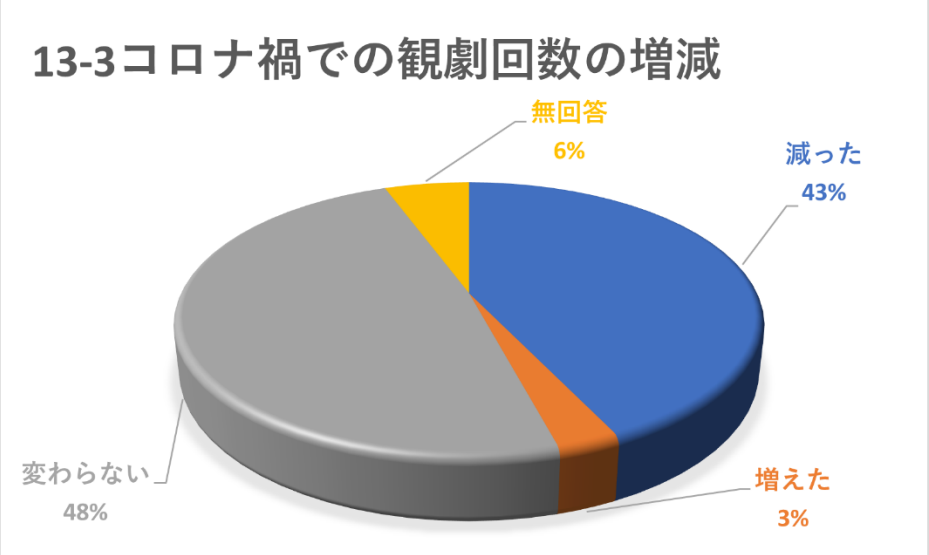
団体名	会場名	入場者数
下関市民劇場	下関市生涯学習プラザ	951
北九州市民劇場	北九州芸術劇場	2640
大分市民劇場	J:COM ホルトホール大分	360
別府市民劇場	ビーコンプラザ フィルハーモニアホール	458

劇団 NLT「O.G.」

団体名	会場名	入場者数
下関市民劇場	下関市生涯学習プラザ	1145
北九州市民劇場	北九州芸術劇場	2739
大分市民劇場	J:COM ホルトホール大分	392
別府市民劇場	ビーコンプラザ フィルハーモニアホール	458


13-1年齢
80代
10%
90代
0%
10代
1%
20代
1%
30代
1%
40代
3%
50代
10%
60代
37%
70代
37%


13-2職業
会社員
10%
公務員
4%
団体職員
1%
自営業
6%
専門職
2%
学生
1%
専業主婦
29%
パートアルバイト
12%
無職
28%
その他
7%


13-3コロナ禍での観劇回数の増減
無回答
6%
減った
43%
増えた
3%
変わらない
48%

アートキャラバン事業についての意見と感想

下関

●都市、地方に限らず、どこにいても芸術を鑑賞できる状況を維持、支援することは、とても大切な活動だと思います。もっともっと広げていける環境になることを願っています。

●コロナという今まで無かったものに世界中が影響を受け、今までの日常が全く違うものとなってしまいました。そんな中、国が演劇業界を、文化を守るためにこのようなすばらしい事を始めた事を支持します！！

北九州

●地方では、なかなか生の舞台の感動を味わえません。劇団が地方にもまわれるような支援が必要だと思います。日本の演劇文化の灯を消さない支援をお願い致します。

●コロナ禍の為に皆が必要最低限の外出しかしなくなってしまい、観劇の為の外出などは出来ない雰囲気になってしまった。心を豊かにするためには芸術は必要不可欠だと思います。

大分

●人間の豊かさが生み出してきたのが文化、その文化によって私たちの生活も潤い豊かになる。文化庁には今後ともしっかりと支援をしてもらいたい。行政の大切な仕事だと思う。

●終わりが見えないコロナ禍によって、舞台芸術を創造する側も迎える側も大きな打撃を受けています。そんな中で多くの芸術家や実演家が苦境に立たされている現状を何とか支援し、コロナ禍を乗り切ってほしいと思います。文化庁からの支援は今後も続けてほしい。そして、市民劇場も様々な支援を受けながら乗り切って行けたらと思います。

別府

●コロナ禍によって大きな打撃を受けた劇団や鑑賞会に対して、財政面で支えて頂けることは、本当にありがたい。東京や福岡まで出かけなくても、自分の住んでいる場所でこれからも本物の演劇を観続けたいと願っている。文化芸術は人生を豊かにしてくれるものだから。

●文化庁の支援に感謝するとともに、演劇を含む多くの舞台芸術などの文化芸術活動に、国全体が一層のバックアップをして欲しいと願う。

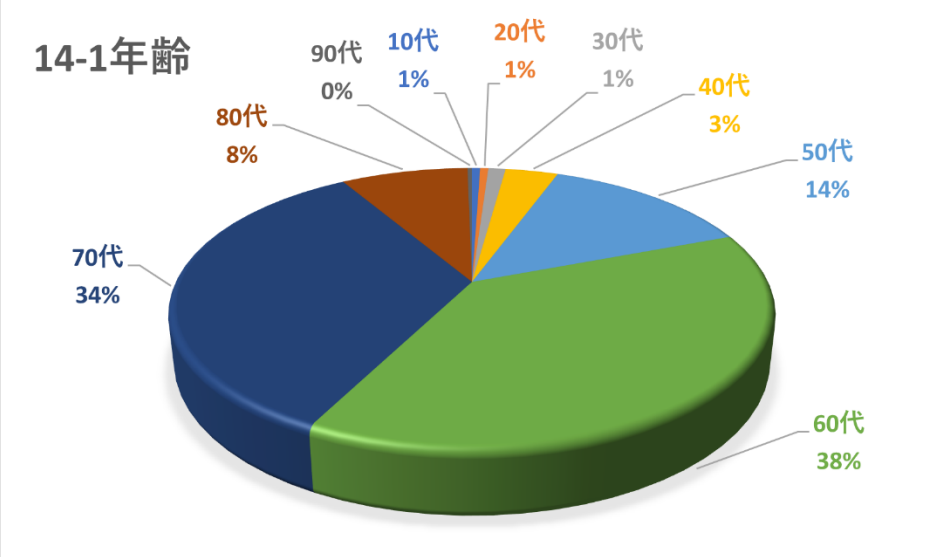
14 福岡県（福岡市、飯塚市、直方市、田川市）、佐賀県

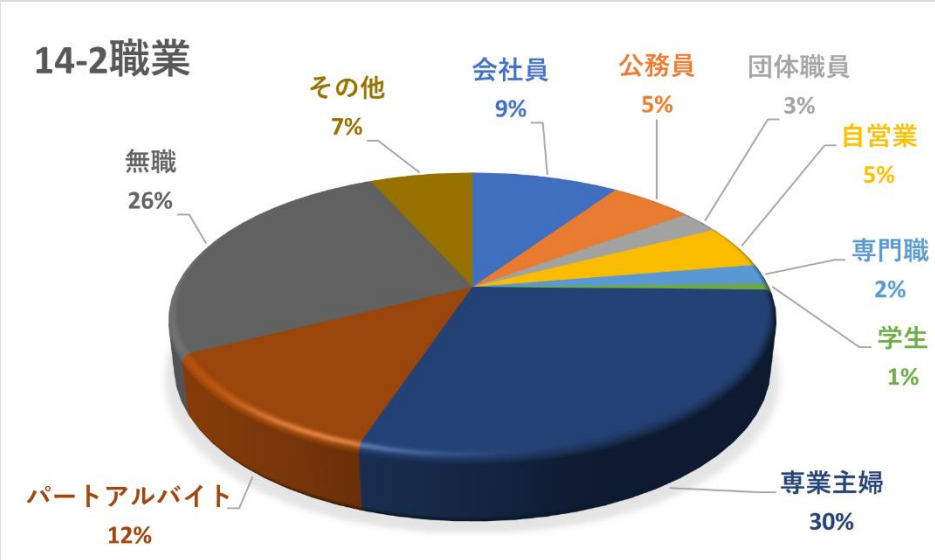
劇団民藝「泰山木の木の下で」

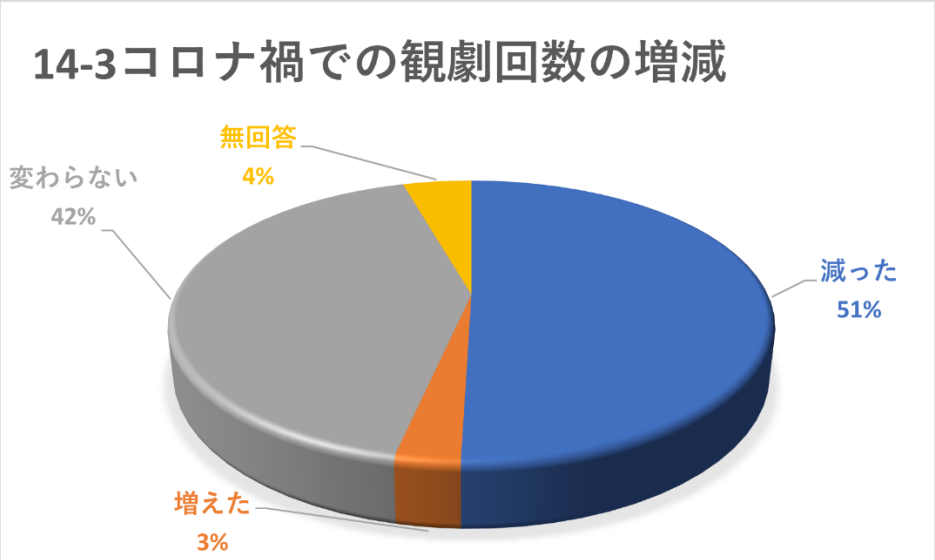
団体名	会場名	入場者数
飯塚市民劇場	イイヅカコスモスコモン（飯塚市文化会館）	384
直方市民劇場	ユメニティのおがた	394
福岡市民劇場	ももちパレス 福岡県立ももち文化センター	2392
佐賀市民劇場	佐賀市文化会館	891

劇団 NLT「O.G.」

団体名	会場名	入場者数
田川市民劇場	田川文化センター	272
飯塚市民劇場	イイヅカコスモスコモン（飯塚市文化会館）	455
直方市民劇場	ユメニティのおがた	445
福岡市民劇場	ももちパレス 福岡県立ももち文化センター	2548
佐賀市民劇場	佐賀市文化会館	944


14-1年齢
90代
0%
10代
1%
20代
1%
30代
1%
40代
3%
50代
14%
60代
38%
70代
34%
80代
8%


14-2職業
その他
7%
会社員
9%
公務員
5%
団体職員
3%
自営業
5%
専門職
2%
学生
1%
専業主婦
30%
パートアルバイト
12%
無職
26%


14-3コロナ禍での観劇回数の増減
無回答
4%
変わらない
42%
減った
51%
増えた
3%

アートキャラバン事業についての意見と感想

福岡

●東京や大都市だけでなく、小さな町にまでまわってくれる劇団。経済効果と真逆な活動ですが、不要不急の命（精神）を守る営みです。こういうところにこそ、我々の税金を大いに使ってください。

●先人たちが、永い年月をかけて築き上げてこられた演劇が今こうして見られることの喜び。地方にいても全国へ、団員の方々の力によって届けられる芝居の有難さを痛感しております。どこもだれもコロナ禍で収入がたたれ、劇団存続が出来ず、夢たたれた方も多くいらっしゃいます。まだ、本格的に芝居が開ける環境はないが、少しずつ歩み始めようとしている今、より一層の支援が必要です。

飯塚

●地方で観劇する機会は、市民劇場以外ではほとんどありません。日本のどこででも文化を享受できるようにお願いします。

●美術館、図書館と同様、観劇は決して不要不急ではありません。ある人の言葉を借りると、「生きるヒントを与えてくれる」ものです。アートキャラバン事業は、とても有意義な事業と思います。

直方

●トラック１台に積んで移動される、限られた大小の道具などで表現された飽きさせない舞台転換などの素晴らしさは、演劇を観る機会の少ない青少年たちにも味わってもらいたいと思いました。

●文化は心の栄養。舞台に携わる方々の協力無しには一つの作品は成立しない。コロナ禍によって文化事業は痛手を受けているので、国の支援は是非必要。但しスズメの涙ほどの金額ではなく、ドイツ、フランス並を目指してほしい。すべては国民の税金なのだから。

佐賀

●今回のアートキャラバン事業は、文化を守っていくことにも繋がっていくことであり、とても意義深いものだと思います。

●地方在住の市民も、文化芸術に触れる機会のあることが人生の糧、老後になると心の喜びとなるので、是非、有事の際でも取り組み、活動を行うことが出来るような支援や援助の方法を考えて欲しい。

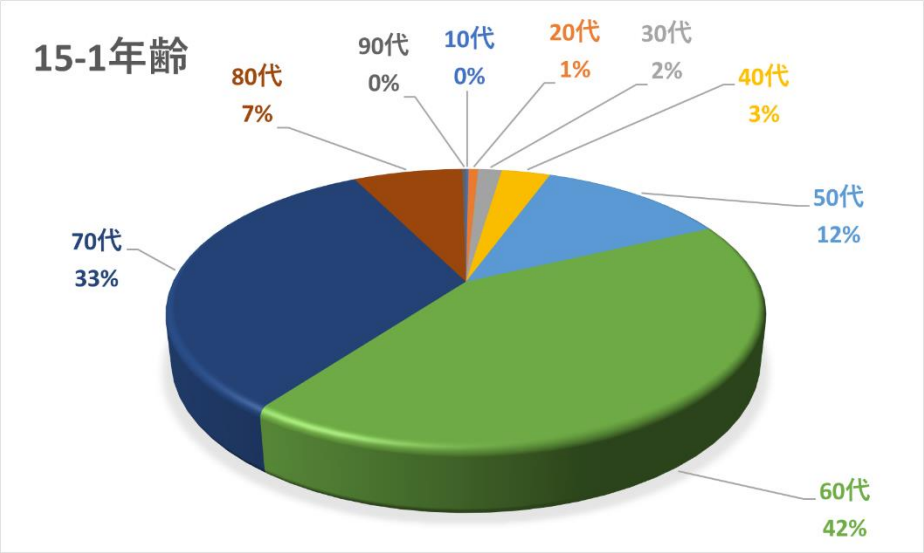
15 長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県

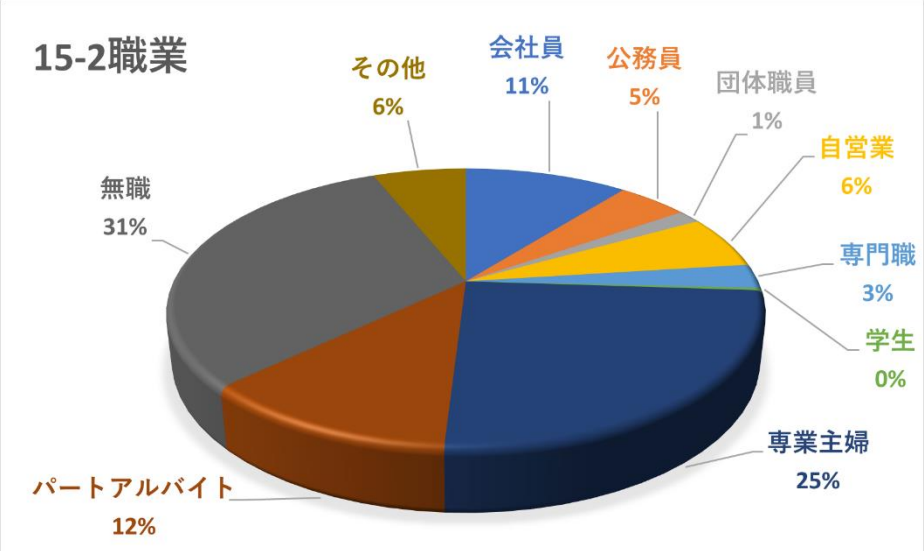
劇団民藝「泰山木の木の下で」

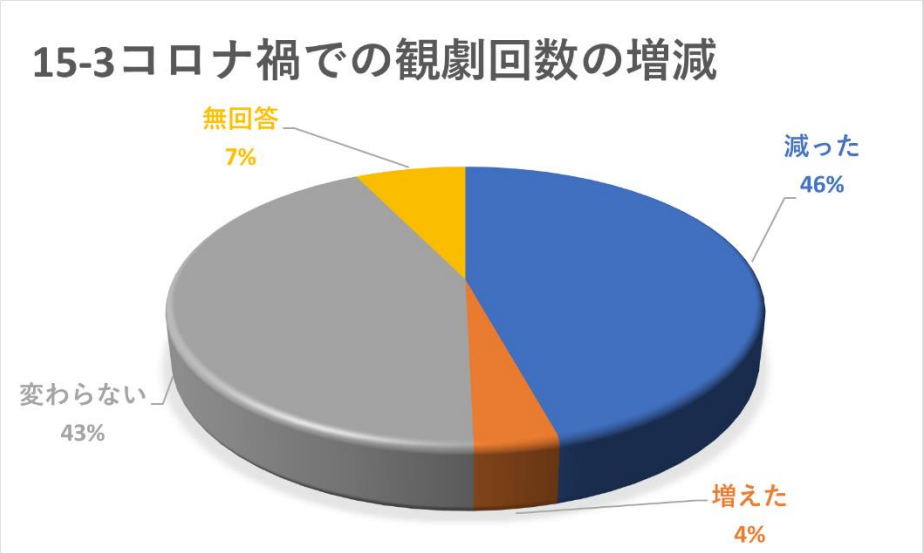
団体名	会場名	入場者数
佐世保市民劇場	アルカスＳＡＳＥＢＯ	404
大村諫早市民劇場	諫早文化会館	488
長崎市民劇場	長崎市民会館 文化ホール	930
島原市民劇場	島原文化会館	318
熊本市民劇場	熊本県立劇場 演劇ホール	1118
鹿児島市民劇場	宝山ホール（鹿児島県文化センター）	785
宮崎市民劇場	メディキット県民文化センター 演劇ホール	548
都城市民劇場	都城市総合文化ホール	351

劇団 NLT「O.G.」

団体名	会場名	入場者数
佐世保市民劇場	アルカスＳＡＳＥＢＯ	401
大村諫早市民劇場	諫早文化会館	510
長崎市民劇場	長崎市民会館 文化ホール	1030
島原市民劇場	島原文化会館	350
熊本市民劇場	熊本県立劇場 演劇ホール	1019
鹿児島市民劇場	宝山ホール（鹿児島県文化センター）	850
宮崎市民劇場	メディキット県民文化センター 演劇ホール	578
都城市民劇場	都城市総合文化ホール	376


15-1年齢
90代
0%
10代
0%
20代
1%
30代
2%
40代
3%
80代
7%
50代
12%
70代
33%
60代
42%


15-2職業
その他
6%
会社員
11%
公務員
5%
団体職員
1%
自営業
6%
無職
31%
専門職
3%
学生
0%
専業主婦
25%
パートアルバイト
12%


15-3コロナ禍での観劇回数の増減
無回答
7%
減った
46%
変わらない
43%
増えた
4%

アートキャラバン事業についての意見と感想

長崎

●長崎にいてお芝居を見られるのは市民劇場のみです！ 東京・福岡に行けば良いお芝居も多く観られるとわかっていますが、経済的にも知らない土地に行くのも無理な状況です！ アートキャラバン事業で地方に居住する文化面に恵まれない私たちにどんどん文化が届きますように支援をして頂きたいです！ 文化庁の支援、今後も増々発展・発進して欲しいと願っています。

佐世保

●日常生活の色々なことが制限される中でも人間同士の対話は必要です。芸術は対話だと思います。芸術を作る場（創造者・鑑賞者）へのサポートは、私たちの社会を維持するために必要なことだと思います。

大村・諫早

●生の公演を地元で見れるのを楽しみにしています。テレビ映画等で伝わるのは心から感動を味わえない。特に地方にいる私たち高齢者は、金銭面での制限があります。税金を日本各地で平等に活用し、市民劇場や劇団等を育成することは、日本文化の発展に寄与するものだと思います。

島原

●演劇を含む文化芸術は人生を豊かにしてくれる。大都会には行かなくても劇団が各地をまわるシステムは本当に有難いものである。

熊本

●文化庁が舞台芸術の創造・鑑賞団体を支援することは大事な事だと思っています。劇団への助成を手厚くして、創造活動がより活性化できると嬉しいです。

宮崎

●鑑賞機会の少ない地方ですばらしい演劇を観られる幸せを感じ、文化庁支援は大変有難い。劇団関係者に今後もできる限り支援をお願いしたい。心の豊かさが求められる時代、このような支援に感謝しています。

都城

●コロナ禍で移動も制限され、職場では大勢の人と会うことも禁止されている方も沢山いらっしゃいます。このような中、地方を巡演してくれる劇団は貴重な存在です。アートキャラバン事業をずっと続けて欲しいと思います。

鹿児島

●文化芸術が命を守るためにも必要だということを、大きなキャンペーンとしたいのでいいことだと思う。もっと日常的にもこういうことが必要だと思う。

④参加劇団、出演者からの報告

演劇鑑賞会のツアー公演を経て感じたこと

西尾友樹（劇団チョコレートケーキ）

劇団チョコレートケーキ『一九一一年』の北海道公演が行われた 2021 年の 8 月といえば、コロナウイルス感染拡大のピークが重なり、旅公演を立ち上げることなどもはや不可能と思える状況でした。

会員数に比して広い会場、感染症が蔓延している中で足を運ぶことを躊躇う方も当然多く、空席の目立つ公演となりました。

それでも、演劇鑑賞会の皆さまは劇団とともに感染症対策を徹底し、可能な限り生の舞台を届けるという気概で臨んでくださいました。

結果として北海道 4 都市を無事に完走できたことは、アートキャラバン事業のバックアップがあったからこそで、とても感謝しています。

コロナ禍であらゆる文化事業は大きな転換点を迎え、舞台製作はさらにその真価を問われる時代となりました。

今後は、古い垣根を越えた演劇文化の水平展開ができ、「文化を発展させ得る」税金の使い方がされることを強く所望いたします。

アートキャラバンに参加して思うこと

佐々木 愛（劇団文化座）

私たち劇団文化座は、コロナ禍でのスケジュール変更があったとはいえ、万全の注意を配ってでも演劇を続行したいという考えで、これ迄やってまいりました。

その中でいただいた、文化庁長官の「文化芸術活動は、断じて不要でもなければ不急でもありません」という見解は非常に心強く、ありがたく受け止めさせていただきました。

又、この度のアートキャラバン事業も、劇団はもとより全国の演劇鑑賞会や、多くの会員さん達の不安の心と、体力を支えていただけたものと信じ、感謝しております。

観劇や外出する行為に後ろめたさや遠慮があり、落ちつかない気持ちで客席に座られる方も居られる中で、開演前にアートキャラバンの案内があり、文化庁の支援のもとに公演が行われる説明（アナウンス）が流れると、会場もホッと力が抜けるように感じられました。

願わくば、観劇後の感想にその成果が現れ、文化庁及び日本劇団協議会の皆様のご努力に報いることが出来たらと、祈る思いで毎回のステージに立たせていただきました。

東京だけに観客がいると思ったら大間違いだ

樫山文枝（劇団民藝）

このコロナは日常の生活を大きく変える禍となりました。

私たちの劇団活動にもおおいに支障をきたしました。コロナ元年の昨年度は突然の公演中止にどれほどの傷を負ったことでしょう。二年目の今年は中止した公演の再開から始めましたが、万全の対策でのぞんでいてもいまだ不安は消えません。

そんな中でこのアートキャラバン事業は大きな励みとなりました。日本劇団協議会から送られた PCR キットで定期的な検査が行われ、創り手の私たちと感染者数の多い東京から劇団を迎える観客の皆さまにとって、安心という後押しをいただけたからです。

この文章のタイトルは、福井出身の宇野重吉先生の言葉です。今でも旅公演の度に先生の声がよみがえります。9 月にその福井と和歌山に山本周五郎の『夜の辛夷』で伺うことができました。岡場所で交錯する秘密を持った男女を描く短編小説の朗読公演です。周五郎ならではの深みのある人情の機微を、彩り鮮やかに表現できればと心をこめて届けました。どれだけ伝わったか自信がありませんが、カーテンコールの鳴りやまない拍手に、何よりも私自身が感動しました。

劇場に足を運んでくださる方々に、豊かで楽しい時間を過ごしていただけるようこれからも一生懸命演じてまいります。

まだまだコロナ禍は続きそうですが、アートキャラバンのような日本中の演劇ファンを励ます支援をこれからも願うばかりです。ありがとうございました。

最終公演地 佐賀市より

旺なつき

アートキャラバンは、質の高い文化芸術活動を核とした事業、と聞きましたが、ミュージカル『O. G.』に出演し、参加が出来たことを嬉しく思っています。アートが旅をする、というネーミングは、私たちの公演活動そのものを表している、とすぐに馴染みました。

コロナ禍で、舞台芸術は非常に苦しい 1 年間を過ごしましたが、今年 3 月にアートキャラバン事業が発表され、減少していた発表の場が保障される取組と知り、心強く感じました。

日本劇団協議会主催の、共通チラシを見ると、たくさんの仲間たちが、全国に公演をお届けする、ということが一目瞭然です。そして市民会館等の会場のロビーに色鮮やかな、アートキャラバンのポスターが貼られていると、今日、この町での上演が出来て良かった！と改めて感じます。そして、演劇は生きる力です、というコピーには演劇人として、勇気を与えられました。

文化芸術は、決して不要不急ではありませんし、人々の心に安らぎや、生きる力を与えます。この取り組みでは観客の拡大は勿論、創造側にも力を頂きました。来年以降の活動に活かされる事業だと改めて感謝しています。

私は宝塚歌劇団出身ですから、エンターティメントの力を信じています。私たちパフォーマーは、観客があっての存在です。今後とも創造と鑑賞の力強い関係を継続し、より優れた作品をお届けしたいと思っています。観客の皆様からの拍手が、この事業の成功を示しています。また皆さまと、元気にお目にかかりたいと、心より願っています。

近畿地方『左の腕』上演を終えて

山本弘人（無名塾 制作）

12 月 4 日から 18 日まで、アートキャラバン事業の一環として、松本清張原作『左の腕』という演目で、近畿地方をまわって来ました。今年は「仲代達矢役者七十周年記念」と銘打ったせいもあってか、あちこちの新聞に取り上げられ、いつもより一回り多くの皆さんに観ていただけたかと思います。12 月 13 日、「泉南」の地で、仲代は 89 歳の誕生日を迎えましたが、その日も夜の公演がありました。殆ど 90 歳という年齢ですから、もちろん足腰に来ている部分はあるとは思いますが、声量や滑舌は衰えることもなく、近畿の各地で芝居を堪能していただけたように思います。

しかし、考えてみると、一回り多くの観客というのは、新聞やマスコミの影響だけではないような気もして来ます。実際のところ、各地の会場にやって来る皆さんの表情を見ていると、この長いコロナ禍の中で押さえつけられ傷つけられた文化的なものへの「飢え」とでも言うんでしょうか、辛うじて息をついでいるような「飢餓感」が肌身に浸みて感じ取れるからです。私たちは、誰しも普段の暮らしの中で、週に一度はハートウォーミングな時間を持ちたいとか、月に一度は自分の心をほっこりさせる豊かな瞬間を持ちたいと願うものです。演劇鑑賞会が「暮らしの中に演劇を」と謳っているように、文化は決して「贅沢品」ではないことを、あらためて思い知らされたような気がします。

今回の事業で感謝したいことは、コロナで疲弊したそんな文化を、こころよく支えてくれたことでしょうか。

ロマンに満ちた英断が、勇気と希望を生み出した

横川 功（劇団東演 制作）

アートキャラバン事業は予定の 324 ステージ全て実施され、相応の成果が寄せられている。これは近年稀に見る大成果と言っていいのではないだろうか。新型コロナ感染症の蔓延による物心両面に及ぼした影響は計り知れない。沈滞ムードがピークになる頃にこの事業がスタートした。敢えてこの難問に取り組もうとした日本劇団協議会、関係者のロマンに満ちた英断が結果大きな成果として、創造者にとどまらず各地の観客にも勇気と希望を生み出したのだ。どんな状況でも人は芸術に触れたい、接したい、創造したいと言う願望は枯渇することはない。それはたかだか 150 年の日本の歴史を振り返ってみてもそんな出来事は枚挙にいとまはない。それだけに今回の事業の真の価値は今後にも大きな意味を持つとあらためて評価できるのではないだろうか。

私たち劇団東演は『マクベス』を持って各地を廻ることになっていた。この舞台は演出家をはじめ俳優 4 人がロシアから参加することになっていたのだが、ご承知の通り全世界からの入国拒否と言う事態に遭遇、六月には在留資格も取得、モスクワの領事館にビザの申請を行っていたのだが、なかなか埒が明かない。今まではスムーズに運んでいた発給がストップしたのだ。領事館は本国からの指示がないと発給できないという。期日は迫り大慌てで日本劇団協議会に相談、今回は「アートキャラバン事業」という、現在の日本にとって非常に公共性の高い公演であり、文化庁を通して「特段の事情」による発給を外務省に要請、そしてギリギリに入国が実現し、各地での公演に出発することができたのである。その結果は先に述べた通り想像を超えた感動が各地で生まれ、どんなに苦境にあっても、多くの人たちが希望を失わず待っていてくれた事実は、今後のあらゆる事業の展開により深い確信を示してくれたと実感。不要不急の代名詞のように思われがちだったが、決してそうではなかったと今回のアートキャラバン事業は証明してくれたと思う。今後の新たな取り組みに発展することに期待したい。

⑤演劇鑑賞団体からの報告

アートキャラバン事業の最終報告書

大井則生（全国演劇鑑賞団体連絡会議 事務局長）

2020 年の前半、新型コロナウイルスの感染拡大とそれに伴う「緊急事態宣言」の発出等で、全国の演劇鑑賞団体主催の公演が延期もしくは中止を余儀なくされました。こうした事態は前例がなく、公演の中止は直接的に劇団・創造団体の活動も停止せざるを得ない状況に追い込みました。しかし、感染防止策の徹底や入場制限が求められる中にあっても、2020 年の 7 月以降は演劇公演を再開できるように創造側も鑑賞側も努力してきました。そして、全国の演劇鑑賞団体は、日本の演劇文化の灯を消さないように「連帯カンパ」を呼びかけ、劇団・演劇創造団体が少しでも元気になるように支援活動を展開しました。こうした取り組みも劇団・演劇創造団体と鑑賞団体が長い年月をかけて培った信頼関係の上で実現できたことでした。

しかし、この間、演劇鑑賞団体も公演実施の際の観客動員が大幅に減少したことは否めません。その危機的な状況は、取りも直さず、公演本数並びにステージ数の減少という形で現れました。

そうした中で 2021 年の 4 月初旬に、日本劇団協議会の方から、アートキャラバン事業へ参加する意思があるか申し入れがありました。その後、数度の協議を重ねながら、この事業の趣旨が、私たちのめざす全国津々浦々まで日本の優れた演劇を普及させていく活動と合致することを確認し、コロナ禍の中で、創造側、鑑賞側双方が活動の萎縮によって、質の高い演劇創造の場と機会を失わないためにも、この事業への参加がひとつの「起爆剤」になるのではないかという期待も込めて、全国の鑑賞団体の合意のもと、運営団体として参加協力することになりました。

鑑賞団体としては、事業規模があまりにも大きく、これまでに経験したことのない取り組みでしたので、様々な混乱が生じるのではないかと危惧しました。しかし、「巡演ネットワーク普及拡大推進プロジェクト―演劇を迎える喜びに支えられて―」と名づけられたアートキャラバン事業は、8 月 28 日の釧路の公演から始まり、4 ヶ月間にわたり、全国 118 カ所、参加公演作品 19 作品、324 公演が大きな混乱もなく無事に終えることができました。コロナ禍であっても、一定の感染予防策をとれば公演は可能であるし、明日への希望を繋ぐ感動の舞台を途切れさせることなく継続することができました。そして、劇団・創造団体と演劇鑑賞団体との関係が、このアートキャラバン事業を通して、これまで長い歴史の中で培った連帯意識に支えられて、日本演劇の発展のために、そのめざす方向性を双方で再確認し、持続していくことの重要性を再認識する絶好の機会となりました。

アートキャラバンを通して感じたこと

鎌田秀勝（青森演劇鑑賞協会）

今回のアートキャラバンは、今後も地域での持続可能な鑑賞を続けるための大きなヒントになったと思います。日本は、国民に対する機会均等的平等主義を掲げていますが、演劇に関していえば地方での演劇鑑賞の機会は極端に少ないのが現状です。

その大きな原因は、いろいろありますが一般的なストレートプレイの場合、観客に届けることが出来る客席数は 500 席程度であり、地方公演の場合、交通費・宿泊費・食事代などの経費がプラスされるため、ステージ数が少ないと採算が取れないため地方での興行的な演劇公演は行われていないのです。

そんな演劇を「自分たちの住む街でも鑑賞する機会を作ろう」と 60 年前に自主的に設立され、地方での演劇公演を可能にしてきたのが演劇鑑賞会です。自主自立を掲げている演劇鑑賞会は、独自の「会員制」で全国に鑑賞の場を広げ、創造団体の協力も得ながら 100 団体を超える組織数があり、この体制が地方での公演を可能にしてきた現実をみると、演劇鑑賞会の果たしてきた役割は大きなものがあります。

しかし、現状はコロナ禍も大きな要因ですが、以前からの会員の高齢化・社会変化の中で会員減少が続き、赤字を抱えての各地での解散が続いています。

経済効率とは違う論理で活動してきた演劇鑑賞会は「演劇は一部の人の楽しみではなく、人間が生きて行くうえで必要なもの」と考え、演劇を通じて地域での人と人のつながりを作る大切な役割を担ってきています。

演劇鑑賞会は「黒字も赤字」も出さない非営利団体です。非営利団体の定義は、世の中の役に立つ団体であり、そこには公益性もあり、日本の文化芸術の振興には欠かせない団体です。なのに、コロナ禍の中、自己責任のように赤字を抱え解散していく団体があるということは日本の文化芸術振興にとっては大損失です。解散すると再建は難しいだけでなく、演劇文化における地域格差は広がります。一つの団体も解散させない対策が必要です。

文化芸術振興基本法（平成十三年）には、人間が人間らしく生きていくためには文化が必要であり、その「文化芸術を守ることは国の責務である」と書かれています。国民には文化芸術を享受する権利があるし、国はそれを守る義務があります。今回のアートキャラバンに当てはめて考えても「意義」も「必要性」も合致します。

「人が生まれ、育ち、つながり、老いて、死んでいく場所が地域です。」 今回のアートキャラバンを機に、国（行政）、創造団体、観客組織の三者が協力し合い、地域格差なく演劇文化発展のためのパブリックなシステム作りのために、共同のテーブルにつき話し合うべき時代になっていると思います。そのことが、今後も地域での持続可能な鑑賞を続けることになり、心豊かな国民生活及び活力ある社会につながるのだと思います。

アートキャラバンから受け取ったもの

黒川 栄（NPO 法人藤沢演劇鑑賞会 事務局長）

演劇鑑賞会には、演劇創造団体の作品を全国に巡演させることで日本型ロングランを実現しているという自負がある。創造団体が限られた公演日程で生み出した舞台を例会（観劇会）として迎え、創造を重ねることで蕾が花を開かせるように作品が練り上げられていく過程を数多く目にしてきたし、それが観客である会員の心の財産にもなってきた。心に響くメッセージで作品に磨きをかける創造団体と、多くの作品から喜びや感動を受け取る演劇鑑賞会とが「車の両輪」に喩えられるのは、そうした 70 年に及ぶ歴史を共に積み重ねた経験に裏打ちされているからだろう。

しかしコロナは、そんな活動にダメージを与え、演劇鑑賞会と創造団体の存続を危機に陥れた。とりわけ高齢化が進む会員が、命を守るためにと退会していく事態に、当初なす術もなかった。利用会場が制限を設けたり休館となったりで、演劇鑑賞会の活動停滞に追い討ちをかけた。そうやって、群れて生きる人間が密を避ければ孤独は進んでいく。

そんな折に持ち上がったのが、今回の「アートキャラバン」だった。もちろん演劇鑑賞会にとってありがたい申し出ではあるものの、戸惑いもあった。どんな組織も自ら調達できなくなった資金を一旦外に頼れば、その循環に依存する体質を抱え込む危険性がある。ただ今回のアートキャラバンの目的である「コロナ禍における演劇の再生」は、まさにこの事態にあって演劇鑑賞会が取組む事業であり使命である。そして、何より日本劇団協議会がこの好機を形にしてくれた。だから大切なのはこの事業を生かすことだと、取組みを決めた。

コロナ禍にあって多くの演劇鑑賞会が後退を余儀なくされる中で、それを乗り越える組織もある。演劇鑑賞会は会員制組織であり、「なぜ私たちは芝居を観続けるのか」を語り合っている点で共通している。同時にそれは「なぜ日本劇団協議会はアートキャラバンを取組むのか」への問いかけでもあった。傷ついたのは自分たちだけではない。思えば、コロナ禍で仕事を奪われた創造団体の窮状がそこにあり、表現活動の場を失い自らの存在意義に悩む演劇人たちがそこにいた。演劇は舞台と観客が共にあって創り出す芸術だ。演劇は私たちの心に想像力という翼を与えてくれる。演劇鑑賞会と創造団体を組織ではなく、一人ひとりの悩み傷つく人間の姿としてイメージすることで、この危機を乗り越えたいと会員にスイッチが入ったのではないだろうか。

アートキャラバン事業は、演劇鑑賞会の回復に向けていっときの猶予を与えてくれた。これからの課題は人間や社会への思いを力に仲間の輪を広げることである。私たちは他者への想像力の翼を羽ばたかせて、演劇が届けてくれる心豊かなメッセージをこの時期にこそ多くの人と共に受け止めていきたいと願っている。アートキャラバンから受け取ったバトンを次に繋げなければならない。

地方都市で観続けていくこと

渋谷亜紀（富山演劇鑑賞会 事務局長）

2020 年 3 月にそれは突然起こりました。私たち演劇鑑賞会の 3 月と 5 月の例会（公演）が中止に。新型コロナウイルス感染の前に、今まで続いた演劇活動があまりにも簡単に止められた瞬間でした。先の見えない不安な日々の中、まず考えたのは劇団のことでした。生計である演劇活動の場を奪われた劇団を何とか励ましたい、そして地方にきて公演をして欲しい思いを強く持ちました。その思いと願いは、その後劇団と鑑賞会双方が例会再開に向けての準備となり、独自の感染拡大予防ガイドラインを持って再開させたのは中止から半年後でした。この間私たち演劇鑑賞会では多くの会員が辞めていき、組織の存続に大きなダメージとなって、現在もその影響を受けています。失ったものが大きい一方で、例会再開は希望でした。客席の 50%制限に縛られながらも、7 月から公演は再開。それは地方において半年ぶりに会館が開かれた時であり、また劇団が公演を再開した時であり、私たちが地元で演劇を観ることができた時であったといえます。「震える思いで客席に座り演劇を観た。喜びを感じました。」の感想がすべてを言い尽くしています。生の演劇を目の前で観ること、それが人にどれだけの力をもたらすのか、改めて知ることになりました。

例会再開から 1 年、堅実な予防対策によって公演による集団感染はなく、継続して公演が行われています。しかし、昨年の組織後退からのダメージはなかなか取り戻すことができていません。営利を目的としない自立した演劇鑑賞会は、一緒に鑑賞していく会員を増やしていく以外持続していく方法はありません。そのために年 6 回の例会を続けていくことが大事です。

今回のアートキャラバン事業は、コロナ禍で劇団が地方における演劇公演を持続可能にするための行政施策。私たちは、これを劇団への応援事業と受け止め、歓迎しました。同時に、この 1 年間演劇を観続けてきた演劇鑑賞会もその一躍を担ったのではないかと信じてやまないところです。私たちはこの事業で 2 つの公演を実施しました。私たちは、劇団が最高の舞台を私たちに届けてくれる期待を高め、多くの人に自信をもって演劇鑑賞をすすめることができたと思います。結果会員を増やして劇団を迎えることができました。今後の組織再構築につなげていきたいところです。芝居づくりには鑑賞者が大切なパートナーです。そのことの重要さを知らしめ、切り離された人と人をつなぎ、地方でそれができることを証明したアートキャラバン事業だったと思います。

創造と鑑賞の連帯、演劇の灯をともし続けるために

大谷紫乃（神戸演劇鑑賞会 事務局長）

2021 年 12 月 19 日、劇団東演『マクベス』を東京で観劇。よりパワーアップした舞台に惜しみない拍手を贈った。聞けば上演回数は 150 回を超えたとのこと。思い起こせば、神戸での例会（公演）は 2020 年 2 月、その頃は 20 ステージ目くらいだったろうか。月末に近畿ブロック全例会を終え、その直後、続く 3 月、中部・北陸ブロックは「中止」となった。

『マクベス』以降、この二年間神戸では 12 本の例会を迎えた。演劇鑑賞会の例会は「地域ブロック」ごとに二年前から作品を決め、一年前には日程を組み、会場やホテルを確保する。中止、延期、劇団変更、作品差し替え……大阪、兵庫、京都を含む近畿ブロックは、「緊急事態宣言」「まん延防止措置」が発出されるたび、その対応に追われた。

例えば、2021 年 5 月例会（8 団体）時は、直前に 3 府県に緊急事態宣言が発出。しかし、兵庫は会場が使用可能となったが、大阪、京都は不可。紀北は和歌山県にも関わらず、紀の川市の独自判断で使用できず。結果、紀北と泉南（大阪）は和歌山市内の会館で合同例会、京都は 6 月に他ブロックの流れで実施。岸貝（大阪）は中止せざるを得なかった。また、実施できたとしても「客席 50%制限」のため、一例会のステージ数を増やす、または大きな会場への変更が必要となった団体も。毎回綱渡りではあるが、劇団と演劇鑑賞会の協働、地元の会館との信頼、なにより「演劇は生きる力」と、生の舞台を待ち望む多くの会員の声があったからこそ、いち早く例会を再開、継続することができた。

とはいえ、演劇鑑賞会にとって、コロナによる会員数の減少、一方客席制限によるステージの追加、感染対策費など経費増加によるマイナス収支は必至。1995 年の震災時、神戸は壊滅的な被害を受けながらも物心両面、全国からのカンパにより支えられた。しかし今回は、日本全体が「緊急事態」。窮余の策の会費値上げや例会本数削減は、演劇鑑賞会解散の呼び水となり、巡り巡って劇団にしわ寄せが。しかしながら、今回のアートキャラバン事業によって、例えば翌年 2022 年、ひこねは 3 例会を 4 例会に、また他の団体も基本の 6 例会を安定的に継続できるメドがついた。成果は、財政面のみではない。演劇に限らず文化芸術は、それを享受する人（観客）がいて初めて成立する。経済も文化も東京一極集中のこの国にあって、創造側はもちろん、全国津々浦々の観客側をも支援する今回の取組みは、長年、自らの地域で新劇を支えている草の根の活動、ポスターに記された 118 の点一つひとつにスポットライトが当てられたことに意義がある。文化は一日にして成らず。

冒頭の『マクベス』、中止・延期を経てこの二年間、日本国中でロングランを成し得たのは、劇団と演劇鑑賞会、その連帯の積み重ねに他ならない。また、演劇がそうであるように、この事業を陰に日向に支えた日本劇団協議会の皆さんのチームワークも、忘れてはならない。

それでも劇団は芝居を創り、旅を続けた

民谷陽子（北九州市民劇場 事務局長）

2020 年、3 月例会間近の北九州で初めてコロナ感染者が発表された。そのタクシーが乗せた乗客がクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号に乗っていたと言う、真実か噂か、ただ恐怖だけが走った。下関の会館がまず、貸さないという態度に出た。北九州は逆に会員から拒否反応が出だした。下関が日程変更を迫られ、北九州と一緒に九演連（九州演劇鑑賞連絡会議）の例会日程の後尾に移動した。つまり 3 月が 5 月への移動である。幸い劇団の調整が可能、5 月なら会館も空いていた。が、最終的に緊急事態宣言と共に会館閉鎖で、九演連の旅は半分の団体が中止せざるをえなかった。その間の緊張は筆舌に尽くしがたい。劇団が背負った負担も大きかった。次の 5、6 月例会も、劇団が東京での稽古に入れず、中止、延期となった。

その後全国的に例会中止、公演中止が相次ぐ。九演連は、延期になった際、即刻話し合い、劇団への保障を持ち寄った。それを聞いた新聞記者が、市民劇場は国がすべきことをやっているのかと驚嘆し、記事として取り上げた。それが何故できたか。九演連は長い間劇団と共に新劇運動を担ってきた、言わば劇団は民主的共同体である。喜びは分け合うが痛みも分け合う。

一方、自宅待機の中に入った劇団スタッフ、キャスト。普段は 8 割がアルバイトで生計を立てているがそのアルバイトもなくなった。例会中止ではなく延期がせめてもの劇団員の励みとなった。劇団は、芝居を立ち上げるのに仕込み費がかかり、俳優たちは日程を押えて計画が進行する。それが全て瞬間でなくなるのである。そこに何の保証もない。

例会延期となったある製作者が言った。「せめて数か月の彼らの家賃をなんとかしないと」。そして「一番怖いのは、物を作り出す気力の喪失」という言葉が胸を突いた。例会で出会ったいろんな顔が浮かんでくる。その時憑いた言葉「私たちは、見放さない！私達の会は私たちが守る！」たくさんの方にメッセージを送り、劇団へのカンパ活動を呼びかけた。

一方で海外の文化省の言葉や即刻出された助成金の情報が新聞紙上で紹介される。日本では、声明を出した演劇人へ「好きでやっているのに」との声が殺到する。これが日本の文化状況だとはっきり認識した。その意識変化を作り出すのも大切な文化運動だと思った。それから刻々と事態は悪化していった。それでも劇団は東京で芝居を創り、旅を続けた。

アートキャラバン・・・最初はピンとこなかった。口に出して何度か言ってみた。アートが旅をする。まさに全国津々浦々、日本の新劇運動が脈々と続けてきた営みではないか！何とも言い難い、感動が広がる。キャラバン、それは「砂漠を旅するんですよ」と言われた。なにか日本の状況を指しているような言葉だった。

今回のアートキャラバン事業は、文化庁がコロナ禍における文化に対する一つの姿勢を示したことだと理解している。今後、日本の劇団が旅をし、文化を広げていこうという営みに対して、一定の文化政策を作っていくことを願うばかりだ。消費ではなく文化を育んでいく政策、例えば、劇団の運営に対する支援などに転換していくことを期待したい。

私たちはまたこつこつと続けていく。この頂いたチャンスを生かしながら。

⑥アンケートから読み取れるもの

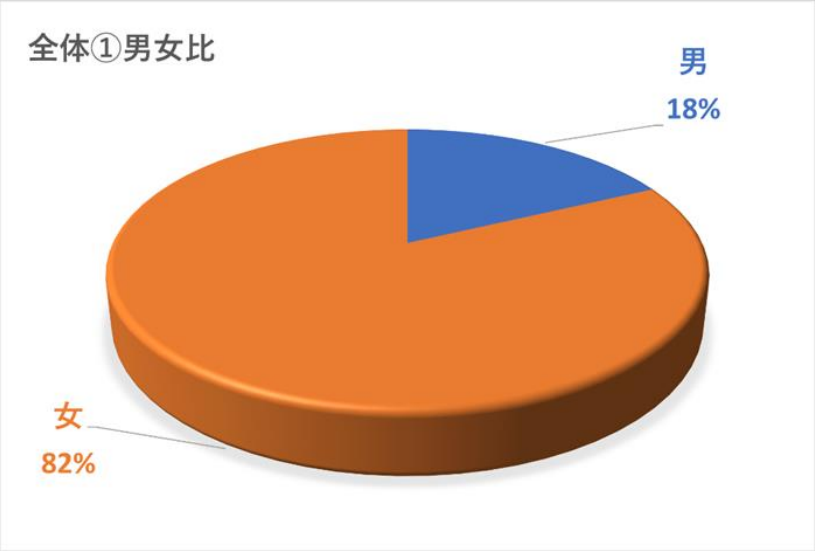
Ⅰ　アンケート総数

総回収枚数 33,192 枚（※設問により無回答があるため各設問の総回答数が異なります）

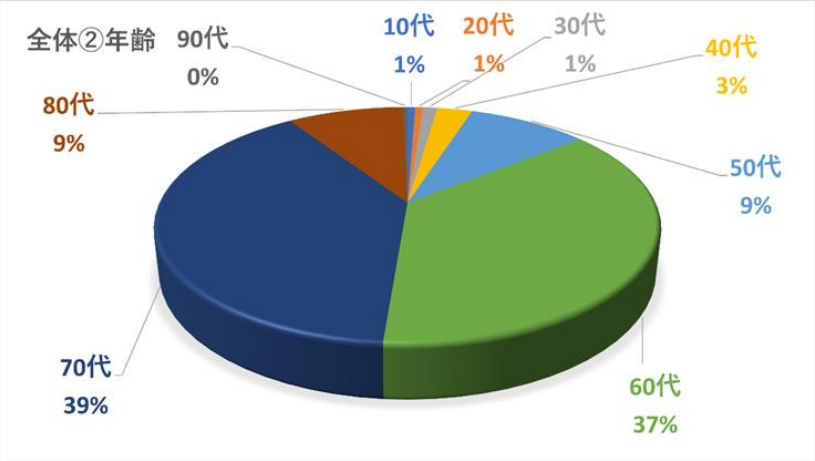
1 性別	男	女								
	5662	25933								
2 年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	
	194	201	350	882	3020	12083	12866	2909	116	
3 職業	会社員	公務員	団体職員	自営業	専門職	学生	専業主婦	アルバイト	無職	その他
	2692	1408	621	1864	609	274	8555	4136	10676	1774
4 何人	ひとり	2 人	3～4 人	5 人以上						
	12567	10787	7175	2026						
5 どなたと	ひとり	家族	友人							
	12632	6621	13236							
6 コロナ前後	減った	増えた	変わらない	無回答						
	13071	869	17032	1714						
7-1 2019例会	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回以上		
	5188	385	739	1499	2819	5244	14181	2403		
7-2 2019以外	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回以上		
	24142	2835	2262	1182	623	430	289	731		
7-3 地元	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回以上		
	27118	2221	1323	632	332	223	203	295		
7-4 地元以外	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回以上		
	28105	1699	1116	522	269	197	98	338		
7-5 地元回数	多い	少ない	同数	無し						
	4233	3277	1310	24134						
8-1 2020例会	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回以上		
	4841	1100	2124	4590	7296	6254	5782	802		
8-2 2020以外	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回以上		
	28404	1900	1022	548	323	229	131	273		
8-3 地元	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回以上		
	29478	1317	699	357	208	156	88	109		
8-4 地元以外	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回以上		
	30690	870	355	174	94	67	32	126		
8-5 地元回数	多い	少ない	同数	無し						
	2596	1375	615	28397						
9-1 2021例会	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回以上		
	1480	1707	2774	5363	7093	8242	4891	1310		
9-2 2021以外	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回以上		
	28168	2307	946	536	303	201	126	305		
9-3 地元	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回以上		
	29255	1741	610	337	201	149	63	138		
9-4 地元以外	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回以上		
	30692	904	382	185	95	61	40	133		
9-5 地元回数	多い	少ない	同数	無し						
	2845	1451	0	28160						
1 4 必要	思う	思わない	無回答							
	27978	288	4425							

Ⅱ　アンケート概要

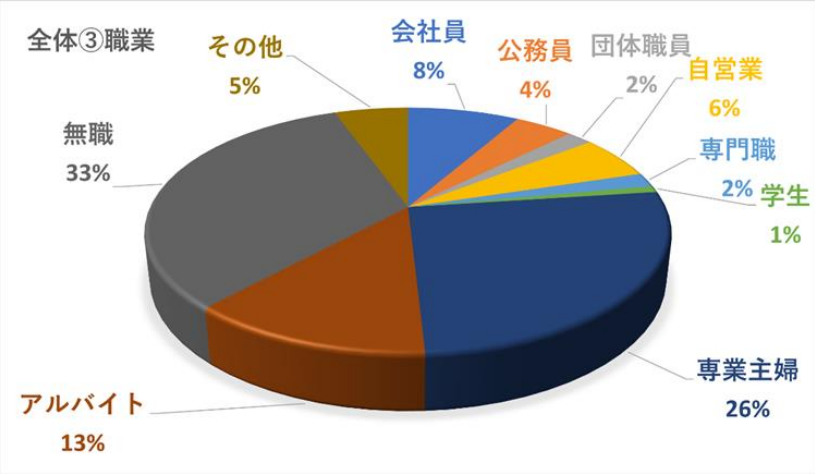
男女比



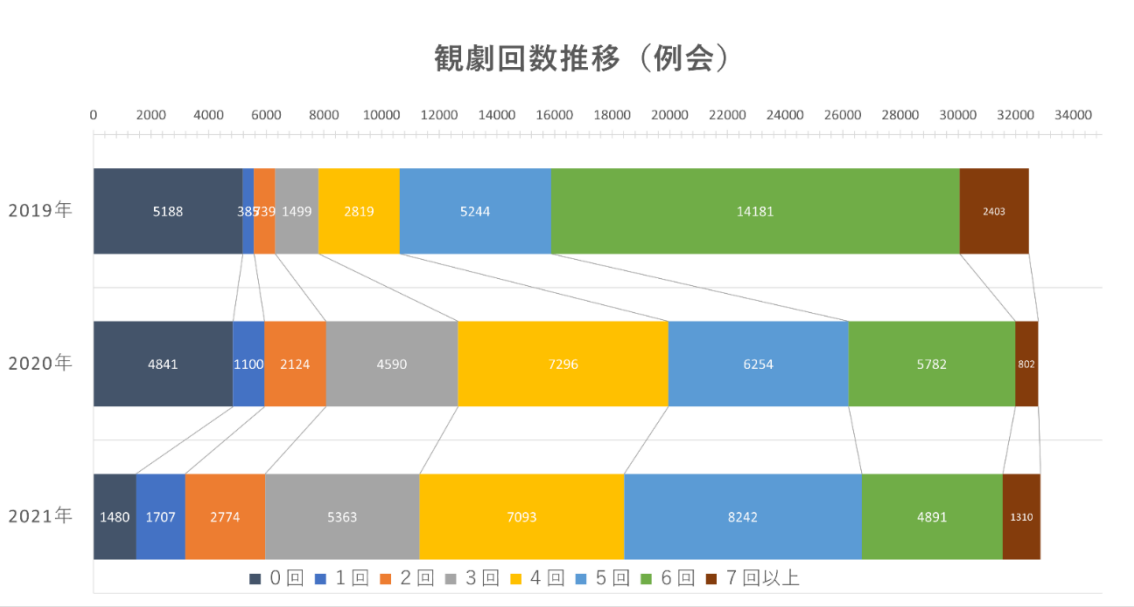
年齢層

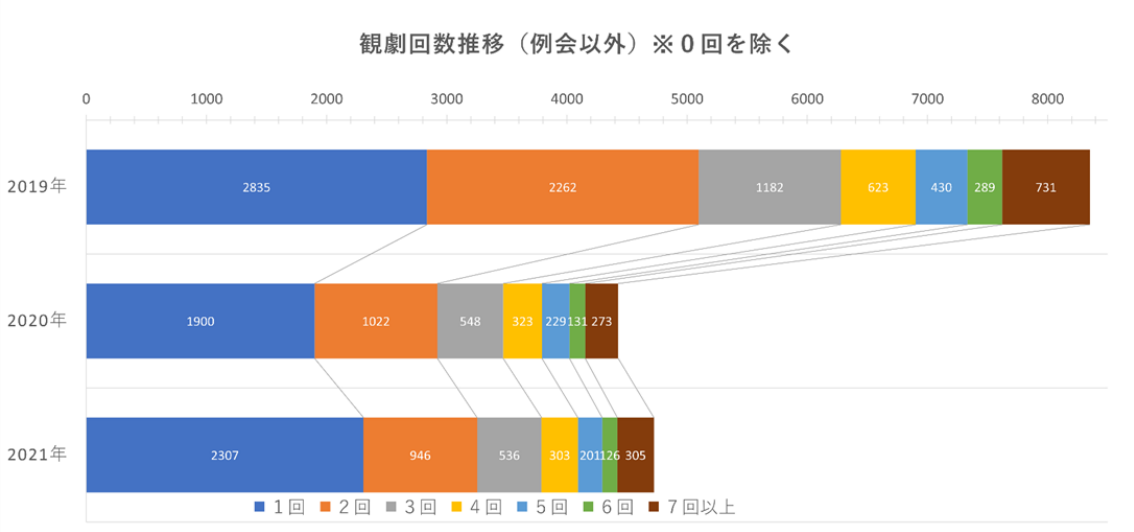


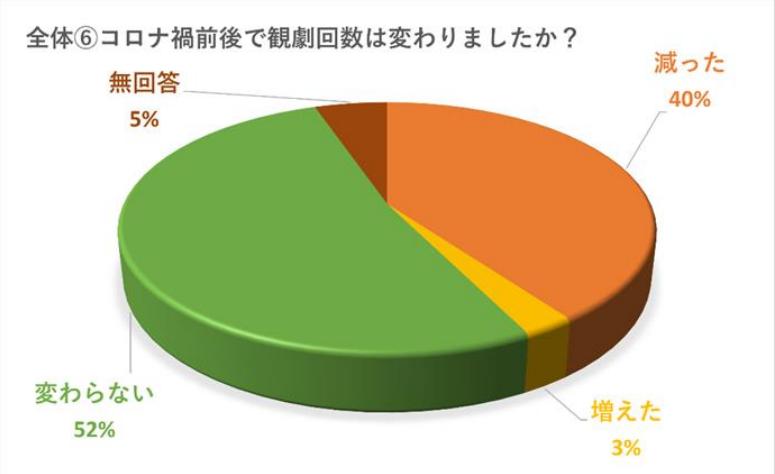
職業別



鑑賞回数


観劇回数推移（例会）
0 2000 4000 6000 8000 10000 12000 14000 16000 18000 20000 22000 24000 26000 28000 30000 32000 34000
2019年
5188 385 539 1499 2819 5244 14181 2403
2020年
4841 1100 2124 4590 7296 6254 5782 802
2021年
1480 1707 2774 5363 7093 8242 4891 1310
0回 1回 2回 3回 4回 5回 6回 7回以上


観劇回数推移（例会以外）※0回を除く
0 1000 2000 3000 4000 5000 6000 7000 8000
2019年
2835 2262 1182 623 430 289 731
2020年
1900 1022 548 323 229 131 273
2021年
2307 946 536 303 201 126 305
1回 2回 3回 4回 5回 6回 7回以上


全体⑥コロナ禍前後で観劇回数は変わりましたか？
無回答
5%
減った
40%
変わらない
52%
増えた
3%

※資料（アートキャラバン観劇アンケート）

【 アートキャラバン 観劇アンケート 】

◆下記アンケートにご協力をお願いします。　（設問によっては無回答も可能です）

① サークル名（　　）　お名前（　　）　□男　□女

② 年令　□10 代　□20 代　□30 代　□40 代　□50 代　□60 代　□70 代　□80 代　□90 代

③ 職業　□会社員　□公務員　□団体職員　□自営業　□専門職　□学生　□専業主婦(夫)
　　□パート・アルバイト　□無職　□その他（　　）

④ 何人でいらっしゃいましたか。　□ひとり　□2 人　□3～4 人　□5 人以上

⑤ どなたといらっしゃいましたか。　□ひとり　□ご家族　□友人・知人

⑥ コロナ禍の前とコロナ禍（2020 年以降）とで、観劇回数は変わりましたか。
　□減った　□増えた　□変わらない

⑦ コロナ禍の前年（2019 年）は、どれくらい観劇されましたか。
　例会(観劇会)　□0 回　□1 回　□2 回　□3 回　□4 回　□5 回　□6 回　□7 回以上

　例会以外　□0 回　□1 回　□2 回　□3 回　□4 回　□5 回　□6 回　□7 回以上
　その観劇は地元で（　）回、地元以外で（　）回、公演地（　　）

⑧ コロナ禍の昨年（2020 年）は、どれくらい観劇されましたか。
　例会(観劇会)　□0 回　□1 回　□2 回　□3 回　□4 回　□5 回　□6 回　□7 回以上

　例会以外　□0 回　□1 回　□2 回　□3 回　□4 回　□5 回　□6 回　□7 回以上
　その観劇は地元で（　）回、地元以外で（　）回、公演地（　　）

⑨ 今年（2021 年）は、どれくらい観劇されましたか。
　例会(観劇会)　□0 回　□1 回　□2 回　□3 回　□4 回　□5 回　□6 回　□7 回以上

　例会以外　□0 回　□1 回　□2 回　□3 回　□4 回　□5 回　□6 回　□7 回以上
　その観劇は地元で（　）回、地元以外で（　）回、公演地（　　）

◆裏面につづく。

◆公演についてお聞かせください。

⑩ 本日の公演はいかがでしたか。

□大変良かった　□良かった　□普通　□やや不満　□不満

⑪ 大変良かった、良かったと答えられた方は、どこが良かったですか。（複数回答可）

□台本　□演出　□俳優　□舞台美術　□照明　□音楽　□衣裳
□その他（　　）

⑫ やや不満、不満と答えられた方は、どこが不満でしたか。（複数回答可）

□台本　□演出　□俳優　□舞台美術　□照明　□音楽　□衣裳
□その他（　　）

⑬ ご意見・ご感想をお聞かせください。

◆アートキャラバン事業についてお聞かせください。

⑭ 本日の公演は、コロナ禍により大幅に減少した鑑賞機会を回復し、劇団・創造団体と鑑賞会・市民劇場が力を合わせて舞台芸術に触れる喜びを取り戻すため、文化庁の支援を受けて行われています。このような取組みはこれからも必要だと思いますか。

□必要だと思う　□必要だと思わない

⑮ ご意見・ご感想をお聞かせください。

◎ご協力ありがとうございました。

公益社団法人日本劇団協議会

Ⅲ まとめ

今回の（公社）日本劇団協議会主催のアートキャラバン事業は、全国 15 地域 118 箇所で延べ 125,969 名の入場者数となる成果を上げましたが、それと同時に、その半数にあたる 60,945 名の方々からアンケートにご協力いただくことが出来ました。昨年末に事業が終了したため、ここに上げた集計結果は第一次事業でいただいた 33,192 通のものですが、それでもこういった事業のアンケート数としては前例のないものでしょう。ご協力いただいた各地鑑賞会の方々、また集計作業に参加していただいた各劇団の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。また詳細な分析については、第二次事業の集計結果と合わせての検討作業を待ちたいと思います。ただ、現時点で読み取れるいくつかの点についてご紹介します。

一つは、全国で演劇の裾野を支えてくださっている観客の皆様の全体像です。女性 82%男性 18%という男女比、また 60 代以上が 84%を占めること、さらに職業分布で言えば無職が 33%、専業主婦が 26%で、合わせて五割を超えることなどです。これらのことは想定されていたことではありますが、数字で裏付けされたのは初めてではないかと思います。この事象については、観客の高齢化として問題視する向きもあったのですが、定年を過ぎた団塊世代を中心にした高齢者がようやく劇場に足を向けることが出来るようになったという肯定的な評価も出来ます。むしろ 30 代から 50 代の就労世代が劇場に足を運べない状況に置かれていることを問題とすべきでしょう。またこの高齢者層は地域における文化活動を始めとした社会活性化の役割を期待されている年齢層でもありますが、それらの人々が演劇鑑賞を日常的に行うことで、地域での様々な文化活動の核となってもいるのです。

第二にコロナ禍の影響です。全体質問で「コロナ禍前後で観劇回数は変わりましたか」という設問に対し 52%の人々が変わらなかったとしていますが、詳細を見ると、2019 年に 6 回以上観劇したと回答した方がほぼ半数いらっしゃったのに対し、2020 年、21 年は 20%弱に止まっています。例会中止、延期などによって、例会本数の減少があり、それがそのまま反映したということでしょう。ただ例会に参加し続けていることで、「変わらない」という回答が過半を占めたと想定できます。また演劇鑑賞団体が各地で感染防止措置をとりながら、困難な中でも活動を継続し例会を開催したことで、コロナ禍での鑑賞機会が守られた事実も示しています。ただアンケートには直接反映されていないのですが、コロナ禍の 2 年間で、劇場から離れた人々がほぼ三分の一いると伝えられています。一方でこのキャラバン事業で新たに劇場へ足を運んだ人々が 4,891 名となっています。外出自粛、密を避ける等が言われる中で、これだけの人々に新たに劇場に足を運んでいただけたことは、この事業の意義を示すとともに、演劇鑑賞団体の存在意義を示すものでもあるでしょう。

第三に前記とも関連しますが、定期的に地元で鑑賞会が行われていることが、これだけの人々を劇場に足を運ばせる原動力であることが改めて明らかになりました。今回、地元と地元以外の観劇数についてのアンケートをとりましたが、ここに示されたのは地元だから観ることが出来ること。しかも演劇鑑賞団体が存在したことで、継続して年間五、六本、定期的に鑑賞していることで日常化しているのです。演劇の魅力を知る観客を作るためには、や

はりその鑑賞機会を増やすことが必要です。芸術文化の裾野を作る上で、何らかの形でこういった演劇鑑賞団体を組織することが課題です。それが多くの人に対しての鑑賞機会を生み出す力にもなるのです。

　そして最後になりますが、自由記述に書かれた「観劇することへの渇望」であり、また「地域経済や社会の停滞、衰退減少の中で、演劇鑑賞機会を作ることの困難」です。「日本の芸術文化が光り輝くものであってほしい。」という願いは、私達にも向けられたものですが、同時にこの国の文化芸術の環境をどう整備出来るのかという課題につながります。さらに「心身の健康維持」「希望、光」「人の血や肉となり、人生を決定づけるもの」等の演劇のはたしている役割を再認識させる声が綴られています。これらの声は私たちの宝にしていくべきものと受け止めたいと思います。

（データ作成・編集部　文責・福島明夫）

⑦今回の成果と今後の課題

今回のアートキャラバン事業の最大の成果は、コロナ禍で打撃を受けた全国の演劇鑑賞団体、及びその他の団体や志ある個人の「文化の灯を灯し続けよう」という意思を激励することができたことです。各地でこの取り組みに協働して下さった方々からの声を紹介しましたが、コロナ禍で受けた打撃はあまりにも大きかったことがわかります。新型コロナウイルス感染は、最初は突発的に、その後は波状的に何回も押し寄せ、それに対応しての緊急事態宣言やまん延防止等重点措置、各自治体の独自措置等で、外出自粛要請が繰り返されました。特に高齢者の重症化が指摘されたことで、退会者が続出したと聞いています。会費の徴収もままならない中で鑑賞会を実施した鑑賞団体の人々の労苦には本当に頭が下がります。その状況に対し、各地の鑑賞事業を今回の当法人主催事業が補完したことで、来年以降の継続実施や、鑑賞会本数の復活に向かっているという嬉しい報告も聞いています。しかもその両者の努力で感染防止対策を徹底したこともあり、全公演を完走できたことは、時期の選択も含め奇跡的なことだったとも言えます。もちろん第六波に襲われている現在、全く予断ができる状況にはありませんが、少なくとも今年の波に向き合う体制を準備することができたのではないかと考えます。

第二の成果は、アンケートの実施によって全国の演劇観客の実相が把握できたことです。これまでも鑑賞団体の独自調査等である程度の把握はできていましたが、全国での 6 万通規模での調査が実施できたことは、今後の文化施策や運動の方向を考える上でも大きな力になるものと思います。「アンケートから読み取れるもの」の項で若干触れましたが、詳細な分析作業はぜひ続行したいと思います。

第三の成果は、この事業を本事業に公演で参加した劇団のみならず、当法人普及啓発事業部を中心に、加盟する多くの劇団の協力、協働の場となり、また全国の演劇鑑賞団体に対し、創造側が劇団の枠を超えた当法人総体として向き合えたことです。コロナ禍による自粛、公演中止、さらには会食の制限等は、私たち自身の心の持ちようにも大きな影響を与えました。ともすると孤立感に苛まれる環境に置かれている私たちにとって、この事業を演劇の仲間たち、そして鑑賞団体の人々とともに実施することができたことは、それ自体大きな激励となりました。これらのことは本報告書にある参加した俳優、スタッフの言葉からお汲み取り頂けると思います。

私たちはこれらの成果に立って、今回明らかになった課題にも向き合っていきたいと思います。

その課題とは、「全国の過半の市町村が過疎地域となった」と指摘されるような状況下にあって、どのようにして全国各地で演劇鑑賞機会を確保、継続することができるのかです。言葉を換えれば、国民に対し、どのように演劇鑑賞機会を身近で継続して定期的に提供できるのかという課題です。

今回は数十年の歴史の蓄積を持った全国の演劇鑑賞団体との共同作業として行いましたが、継続して演劇を楽しむ鑑賞団体に加えて、もっと多種多様な形態での演劇鑑賞機会が全

国各地につくられる必要があります。そのためには各地自治体、公立文化施設に加えて、地元企業や様々な市民団体等との共同作業を行っていかなければなりません。ただその必要性は劇団のみのものではなく、その仕事も私たち劇団だけのものではありません。社会全体の演劇文化への理解を増進することで、全国各地に、そして演劇界にその担い手を増やしていく必要があることも痛感します。

終わりになりますが、コロナ禍に際してこのような「アートキャラバン事業」を施策として予算化していただいた文化庁に深く感謝申し上げます。国の文化政策としても地方の活性化は大きな課題であると考えますが、さらに次の一歩に向かっていかれることを強く期待してまとめに代えたいと思います。

福島明夫

文化庁「大規模かつ質の高い文化芸術
活動を核としたアートキャラバン事業」

巡演ネットワーク普及拡大推進
プロジェクト
―演劇を迎える喜びに支えられて―
主催：公益社団法人日本劇団協議会

2022 年 1 月 31 日
公益社団法人日本劇団協議会
アートキャラバン実施報告書編集部
箱田雅幸　紫雲幸一　宮澤一彦　神馬千裕　田中雄一朗　齋藤裕樹